

発表日：2025年2月20日

乳がん抽出：3月6日発表

記者会見

「高額療養費制度」上限引き上げに伴う 家計・子育てへの影響調査（最終）

子どもをもつがん患者対象



子どもをもつがん患者有志

📍 東京都渋谷区代々木2-5-5 新宿農協会館5F

🌐 <https://hodanren.doc-net.or.jp/>

☎ 03-3375-5121

概要

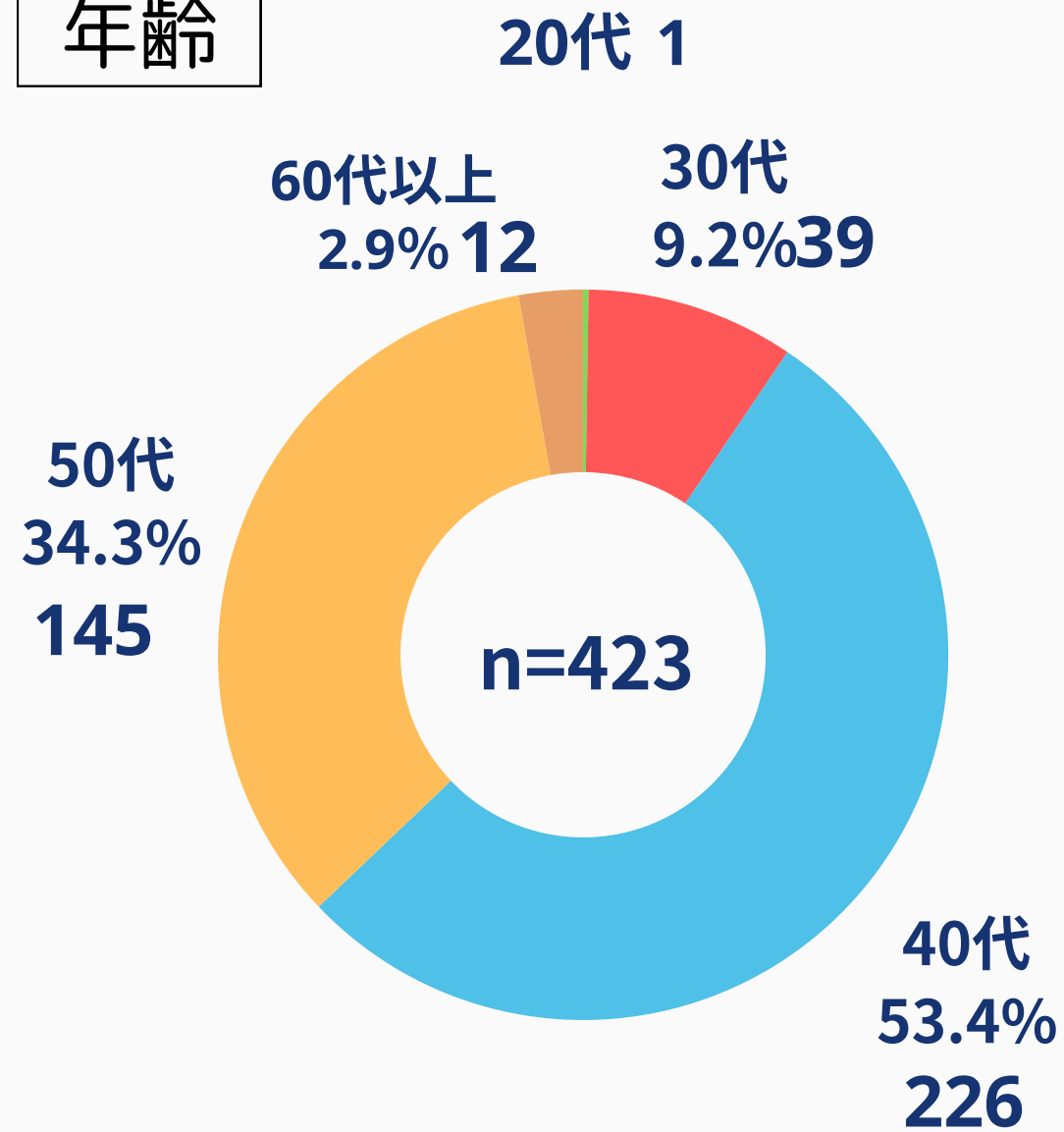
- 調査期間 - 2025年1月30日～2月16日
- 調査方法 - アンケートフォームをメール送付

- 送付数 - 2698件

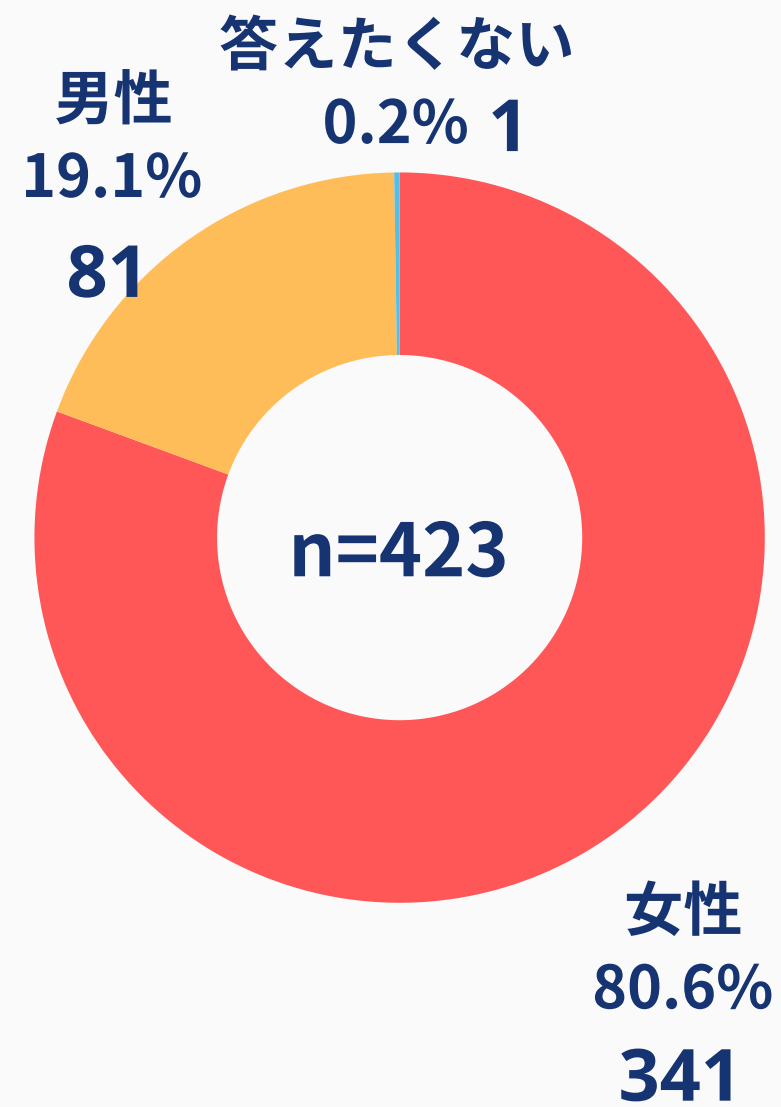
- 回答数 - 423（47都道府県）

回答者の概要①

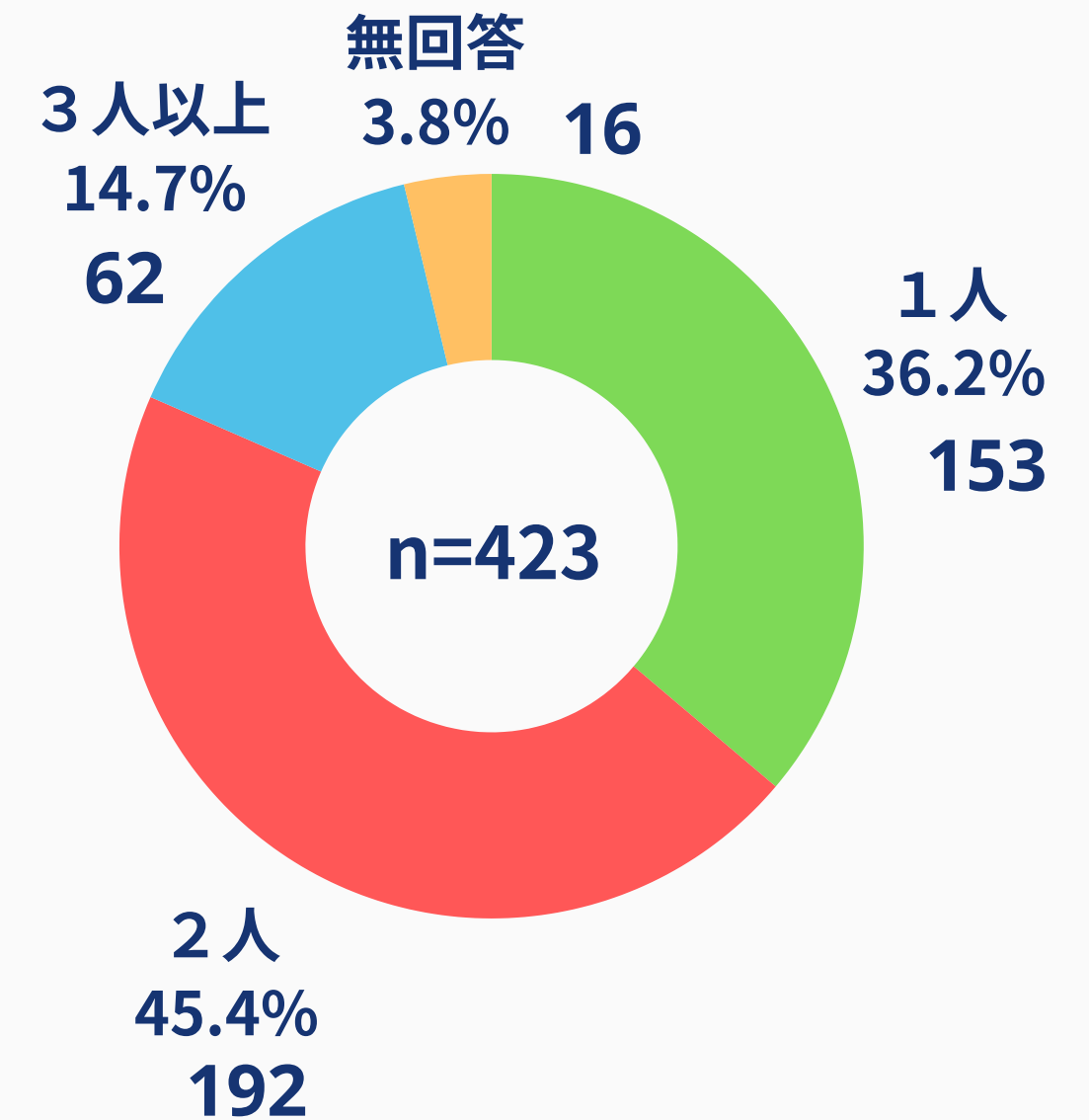
年齢



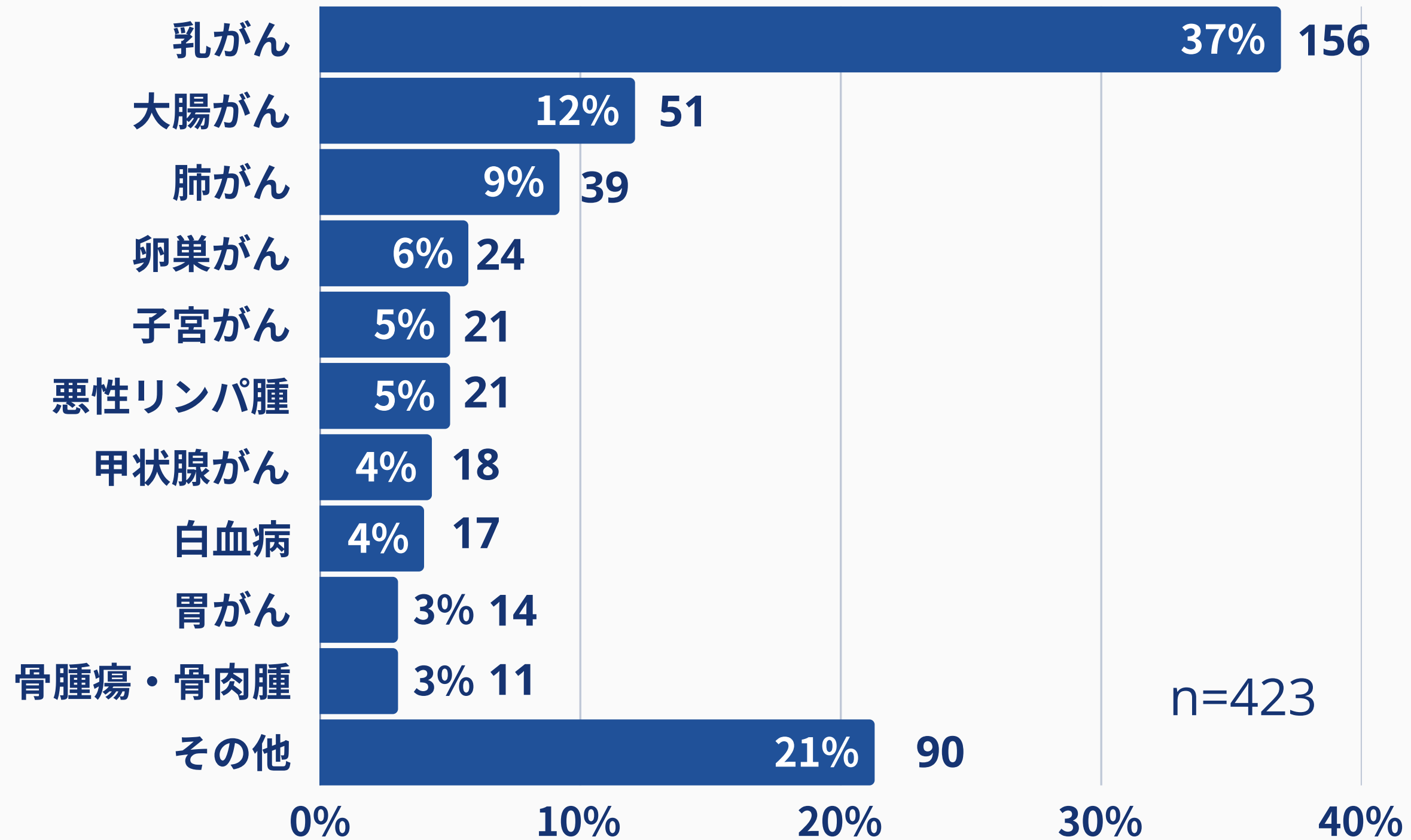
性別



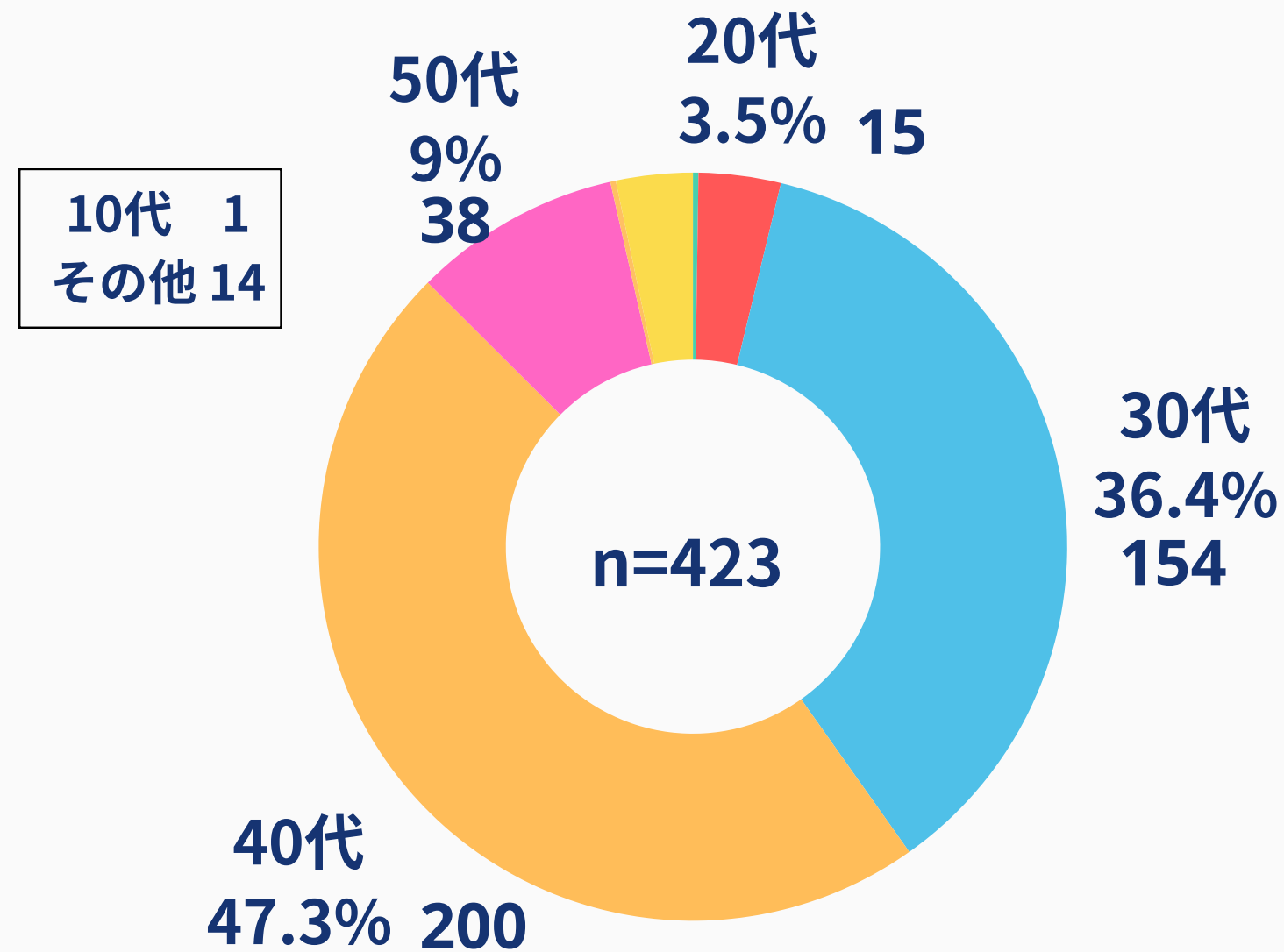
子どもの人数



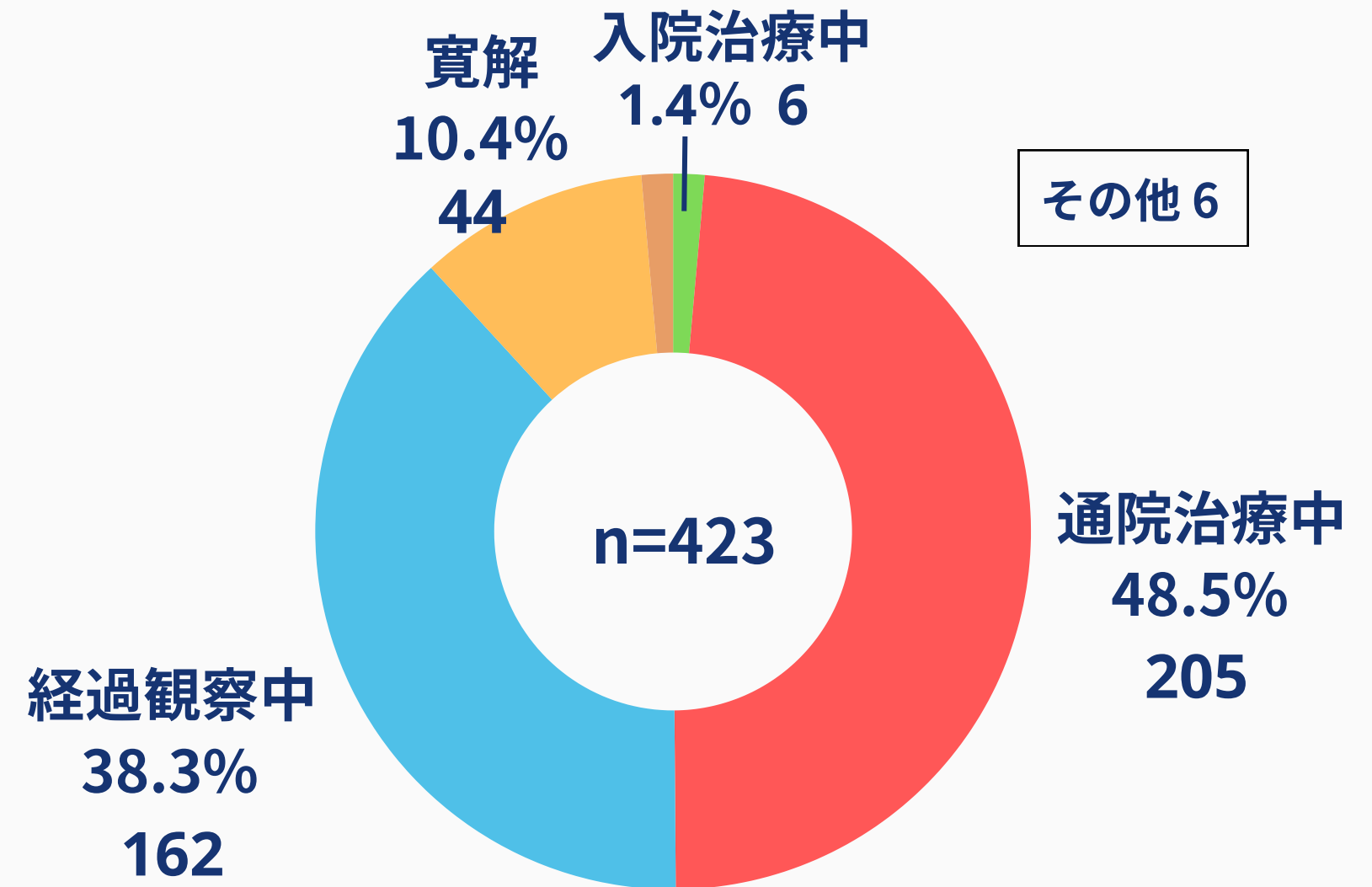
回答者の概要②

がんの種類
(複数選択可)

最初のがんの告知（診断）を
受けたときの年齢



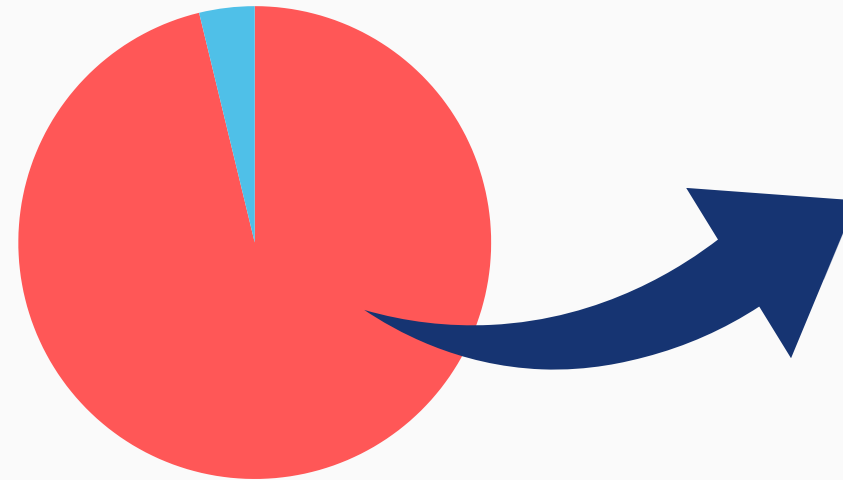
現在の治療状況



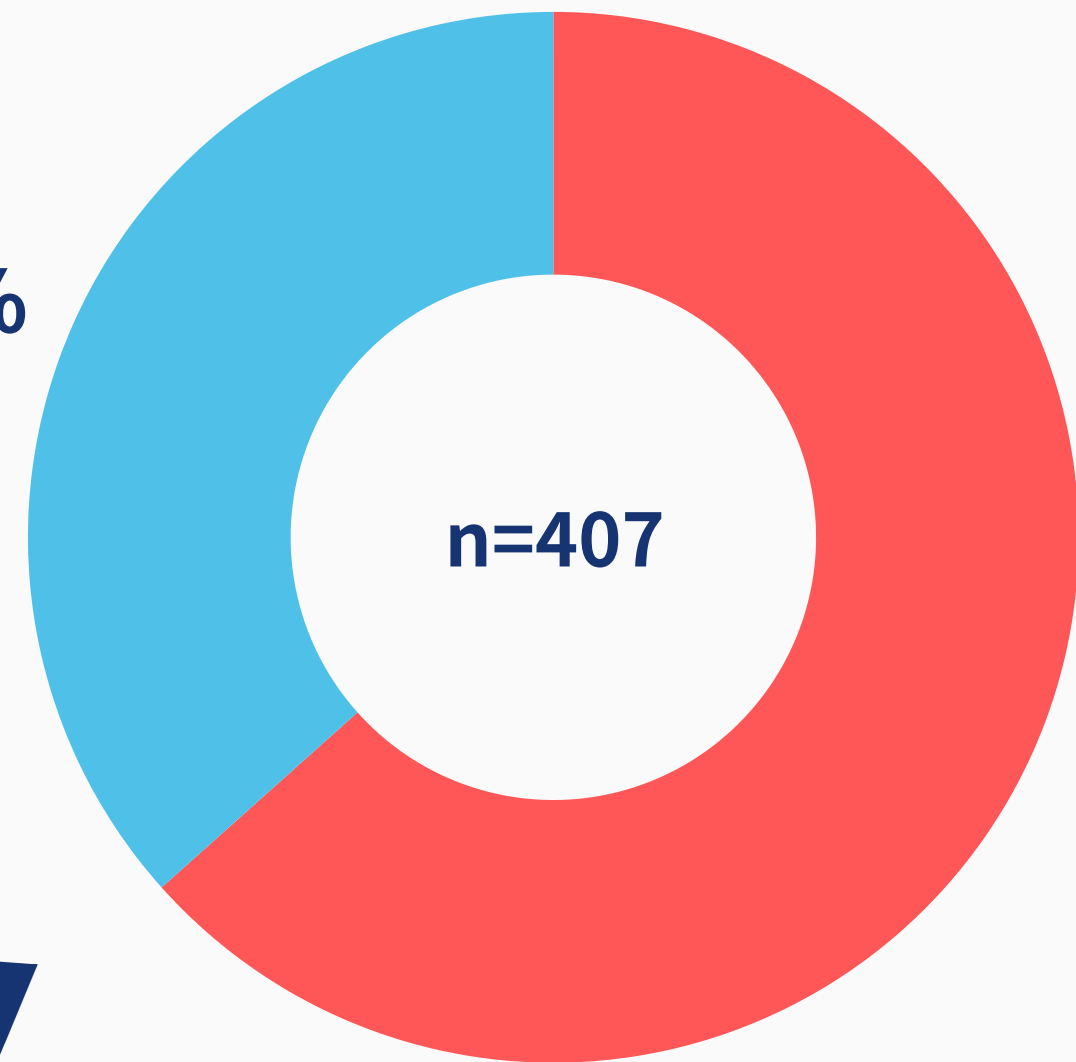
6割が多数回該当になったことが「ある」

高額療養費制度を使ったことが

「ある」 96.2% 407
「ない」 3.8% 16



ない
36.6%
149



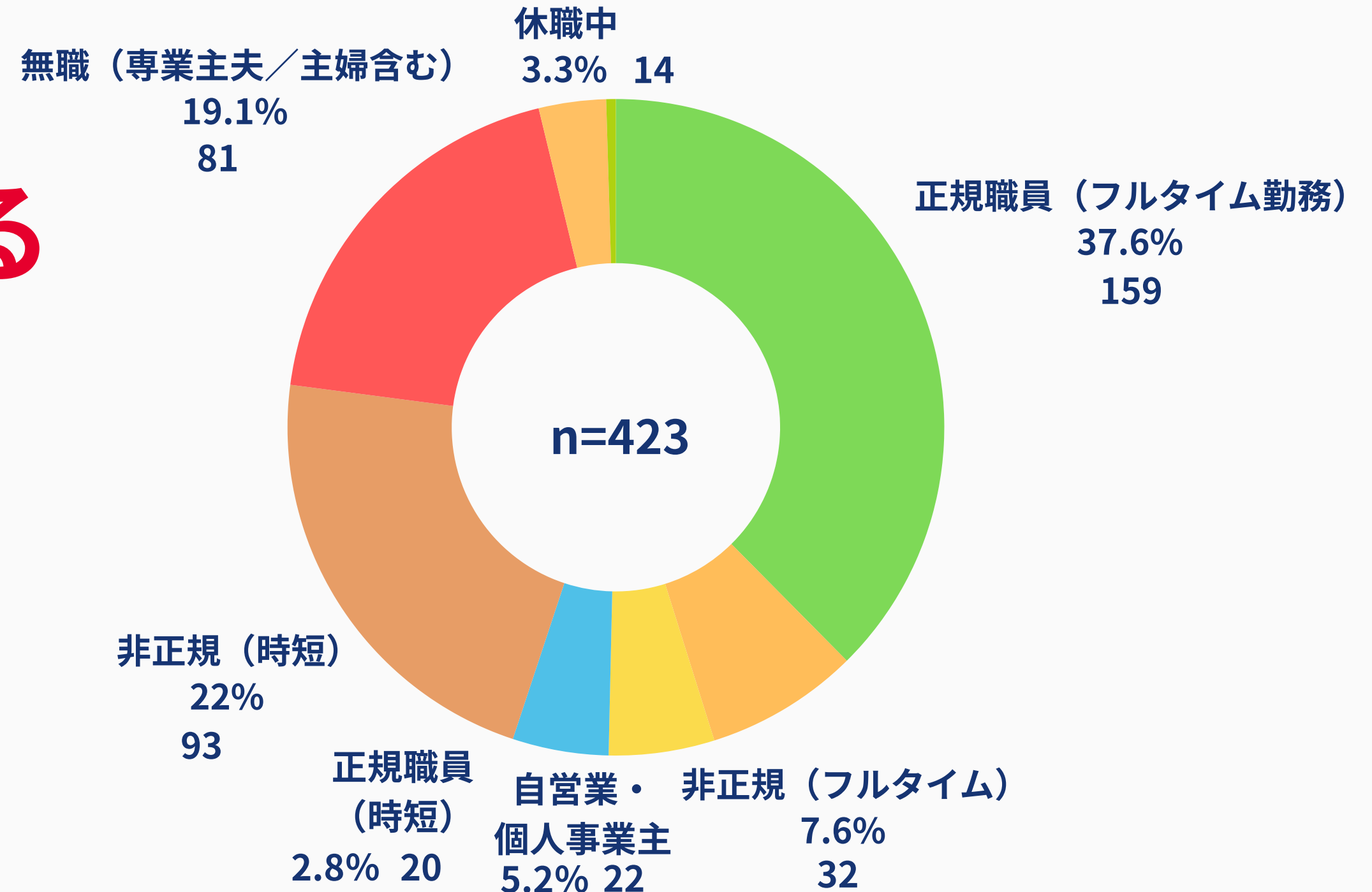
ある
63.4%
258

約 8 割が働いている

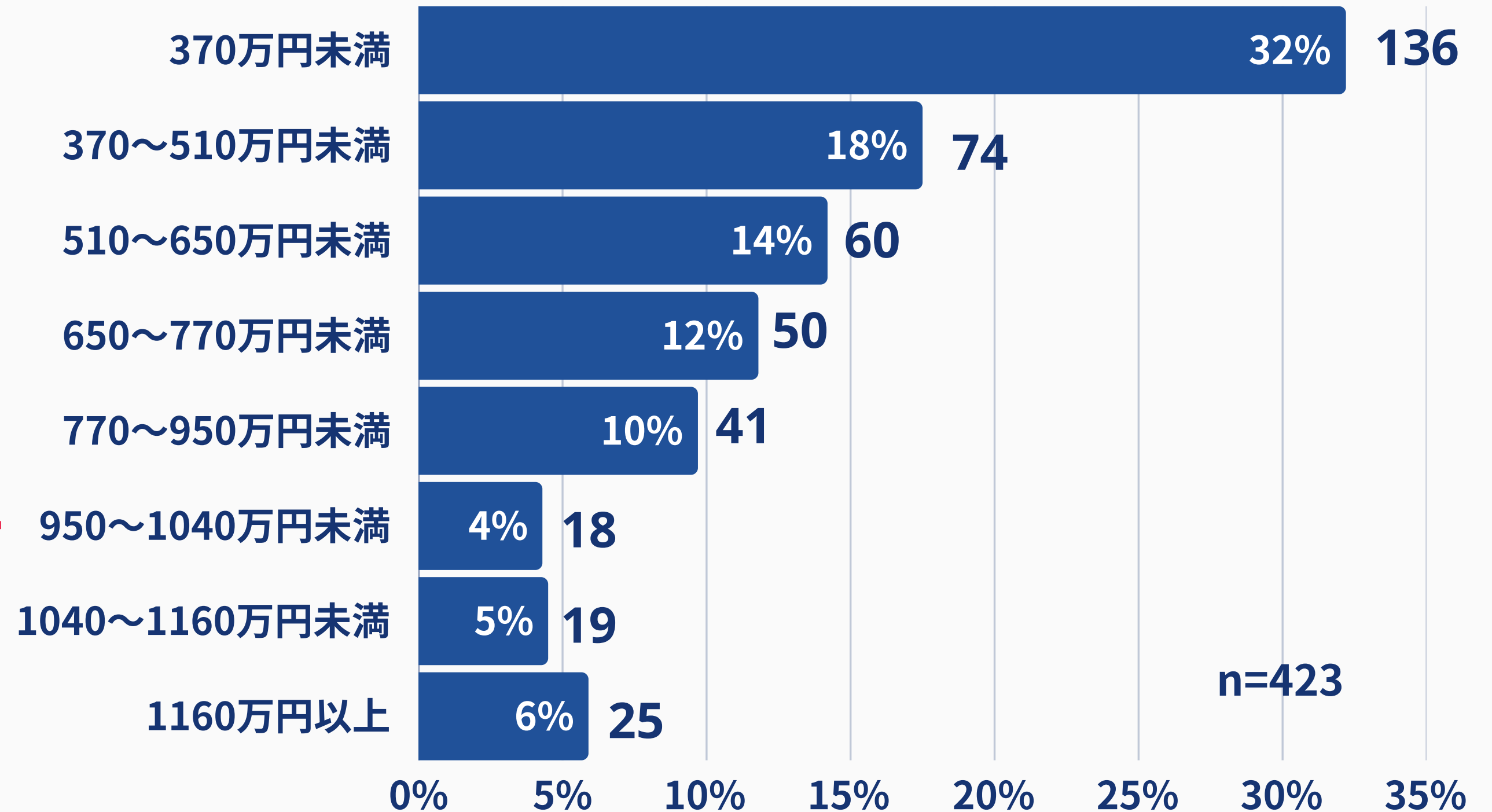
フルタイム・自営
50.4%

時短勤務
24.8%

無職・休職
22.4%



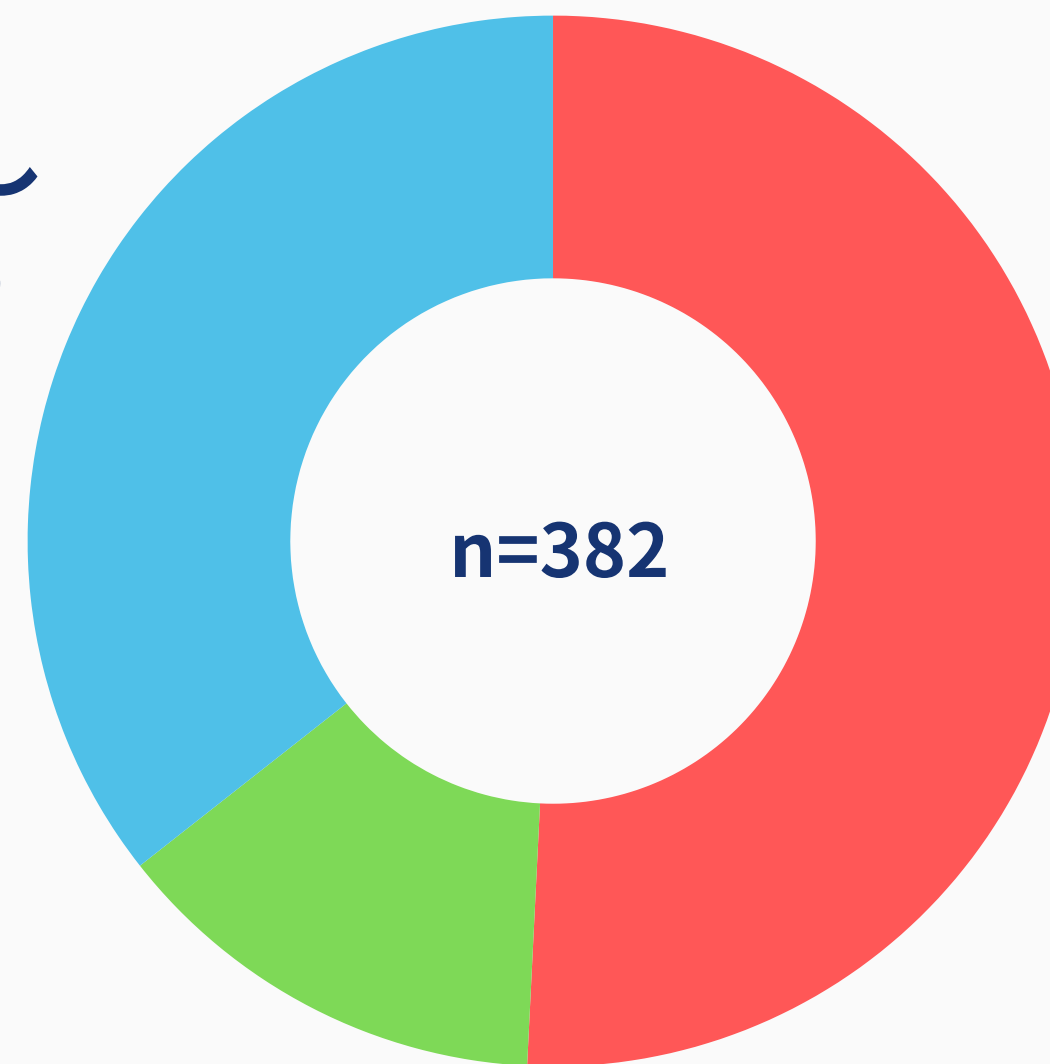
約8割が
引上げの影響が
大きい
年収770万円未満



がんと診断された後、個人年収の変化 (被扶養者の場合も個人の年収)

がんと診断後、
就労者の半数は
年収が下がった

変化なし
35.6%
136

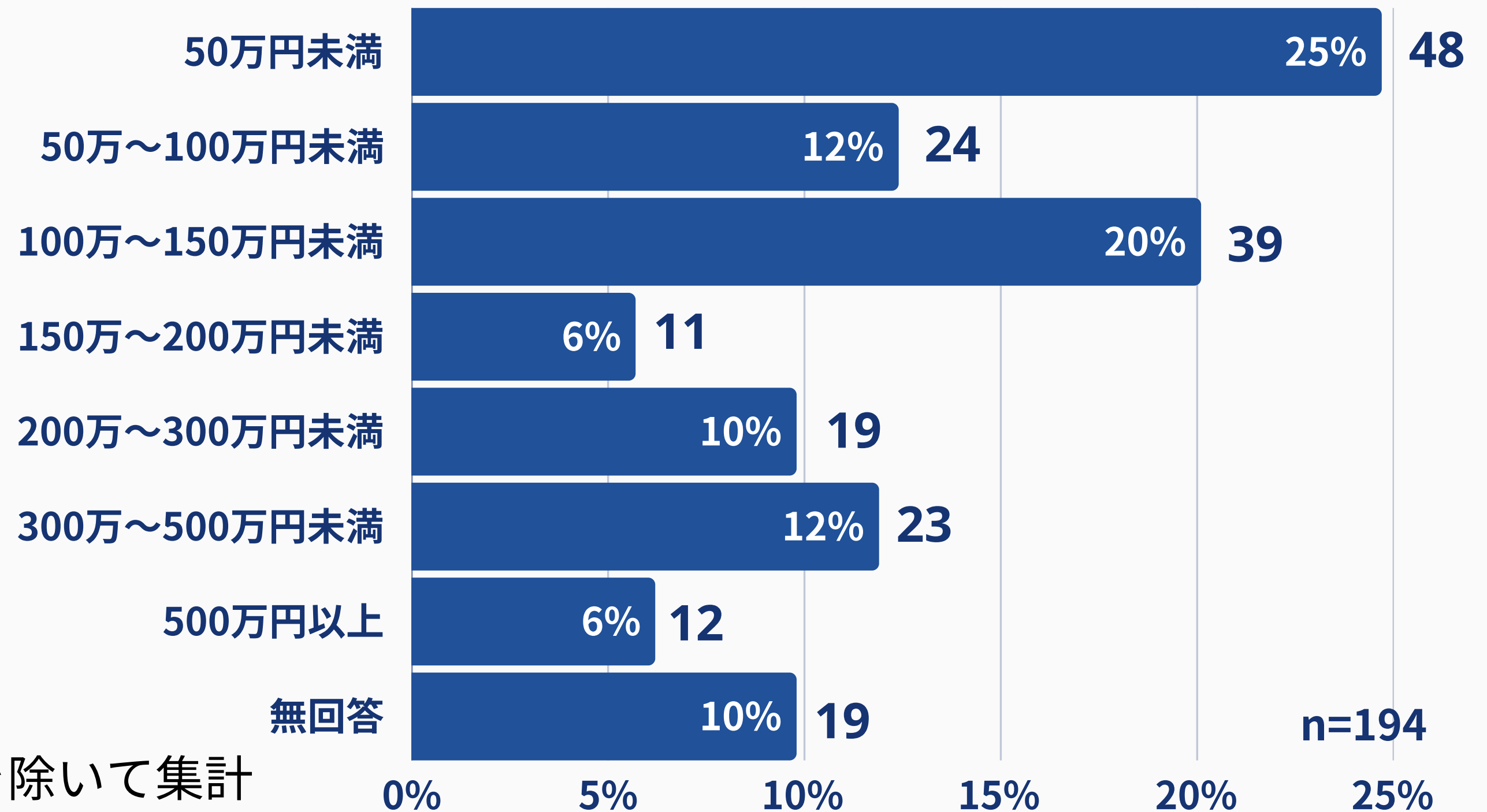


下がった
50.8%
194

上がった
13.6% 52

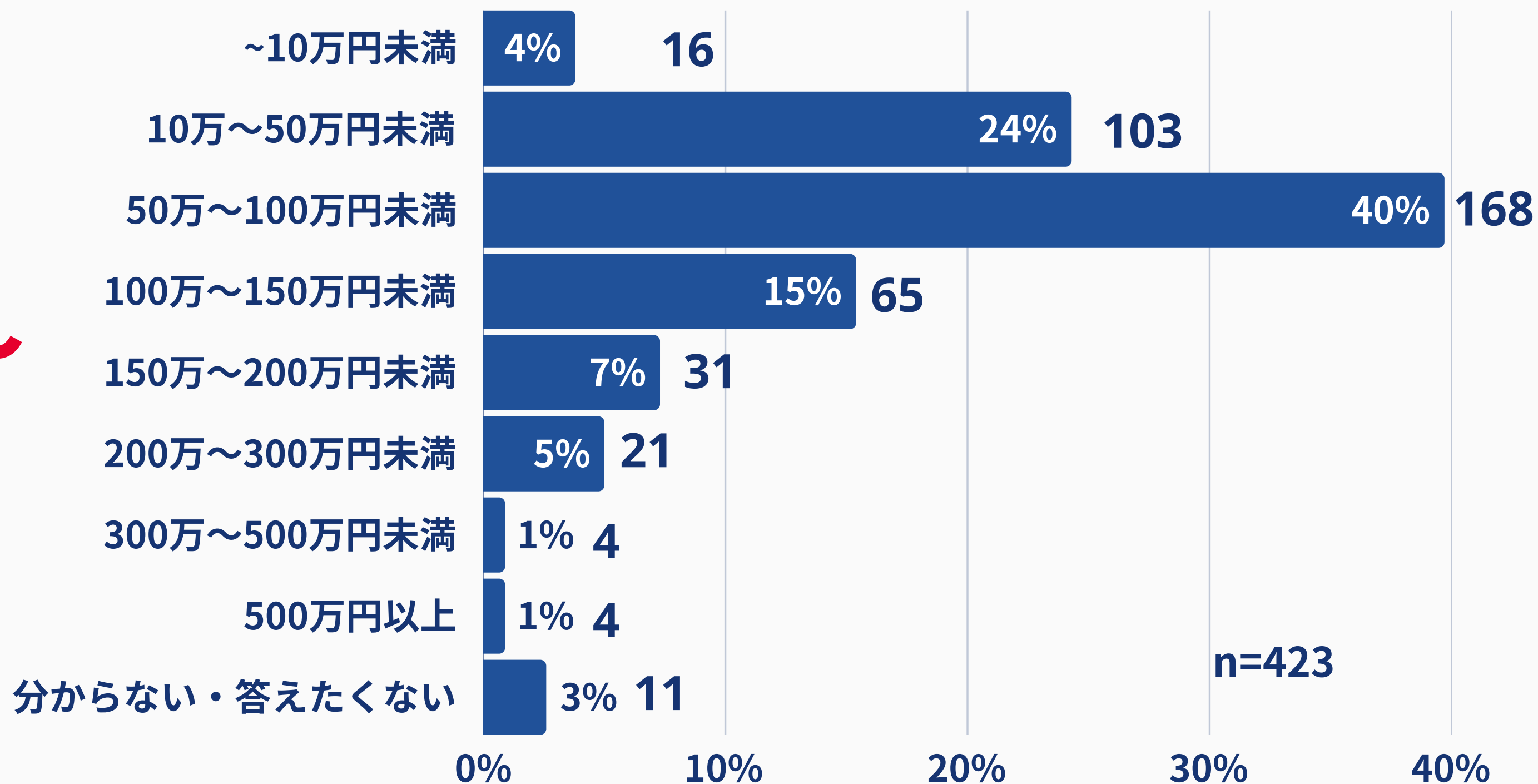
※診断時に無職の41人を除いて集計

3割が
50万～150万円
年収が下がった

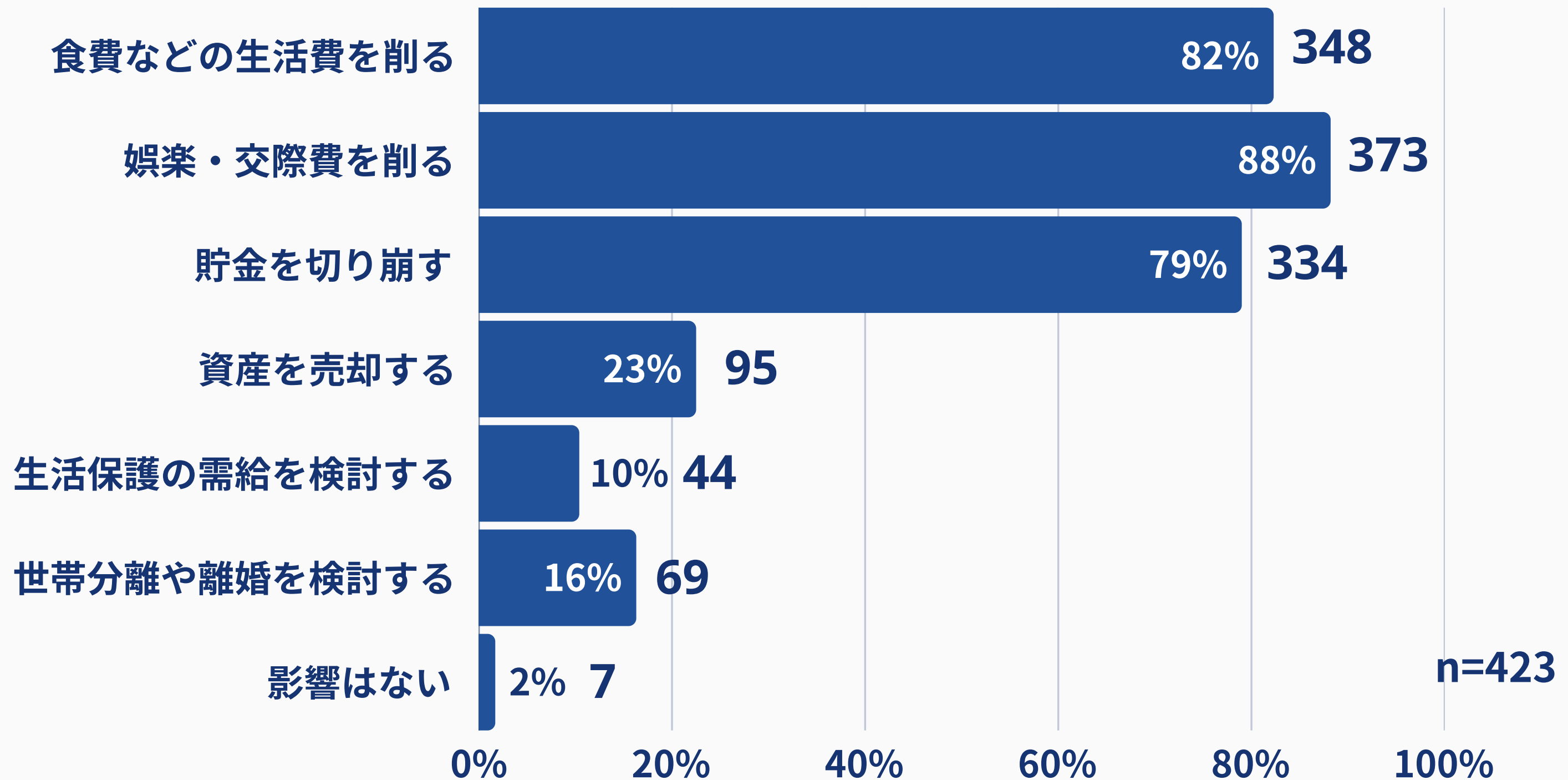


がん治療費が最もかかった時期の、年間の治療費・治療関連費 (保険の給付金等を差し引かない自己負担額)

かかった
治療費は
年間50万～
100万円が
4割で最多

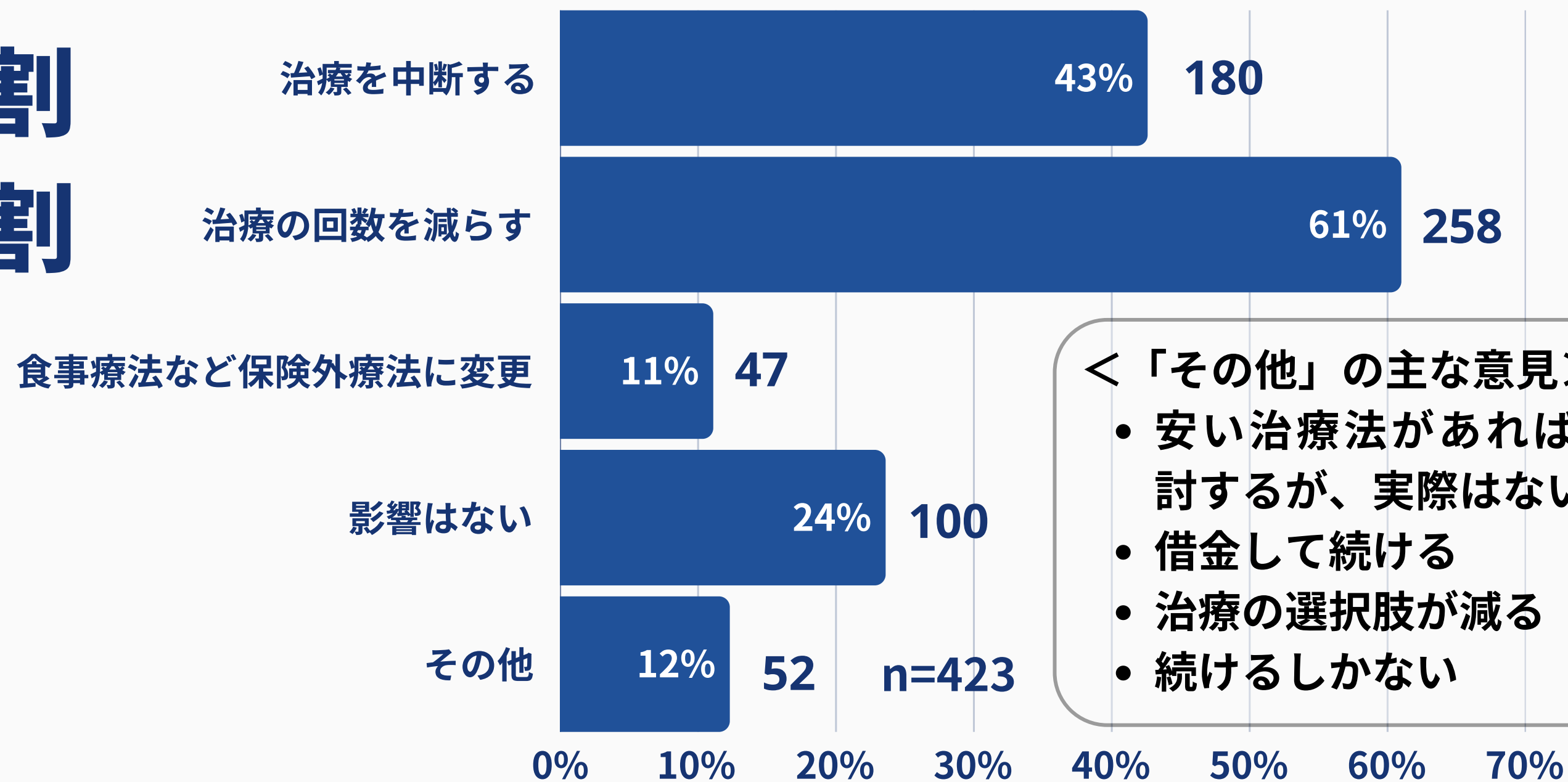


限度額引き上げは生活にどのような影響があると思いますか。 (複数回答可)



限度額引き上げは、治療継続や治療法選択にどのような影響あると思いますか。(複数回答可)

治療中断 4割
回数減 6割



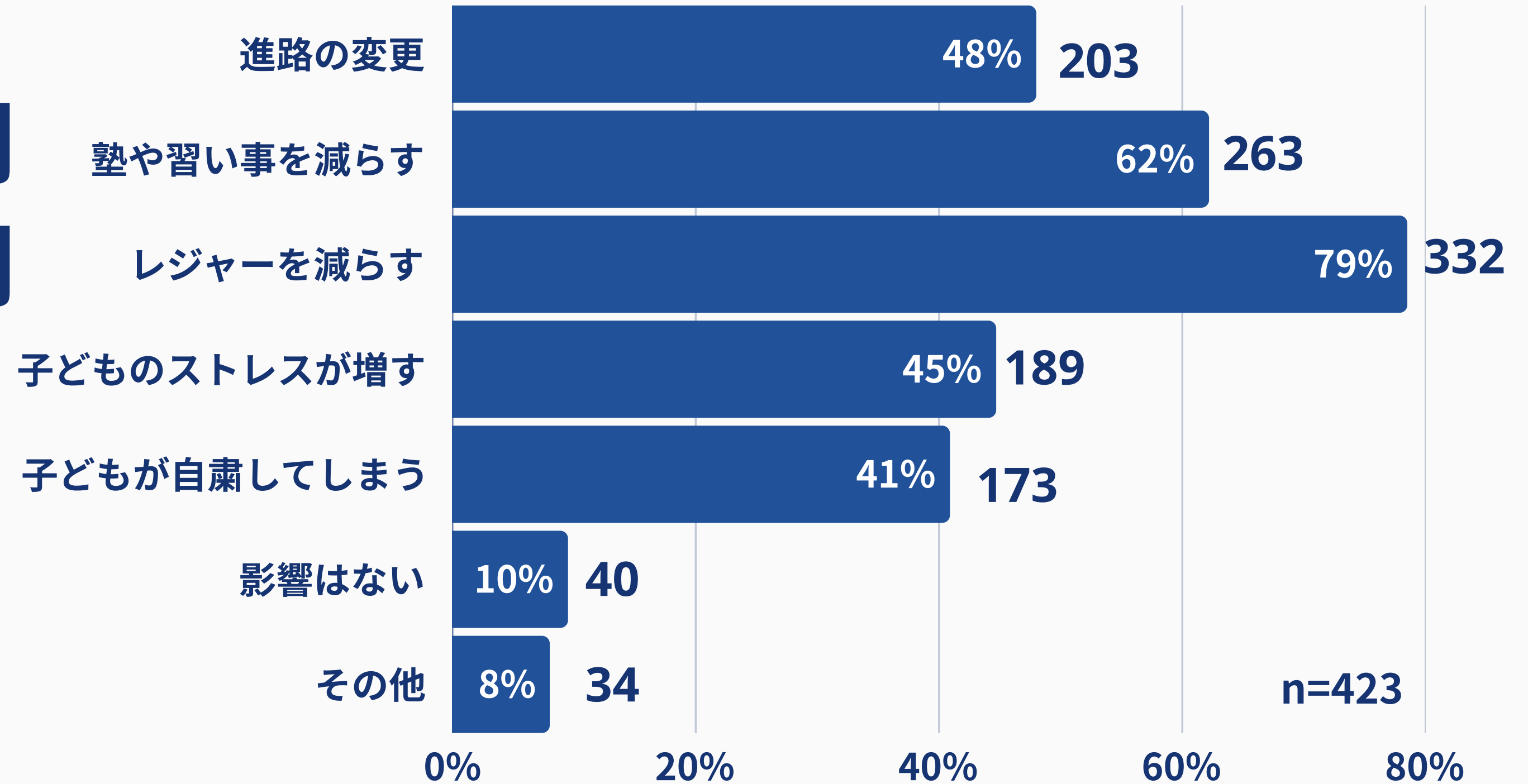
<「その他」の主な意見>

- 安い治療法があれば検討するが、実際はない
- 借金して続ける
- 治療の選択肢が減る
- 続けるしかない

12-1

限度額引き上げは、育児や子どもの教育・生活などにどのような影響あると思いますか。(複数回答可)

進路変更 5割
習い事減 6割



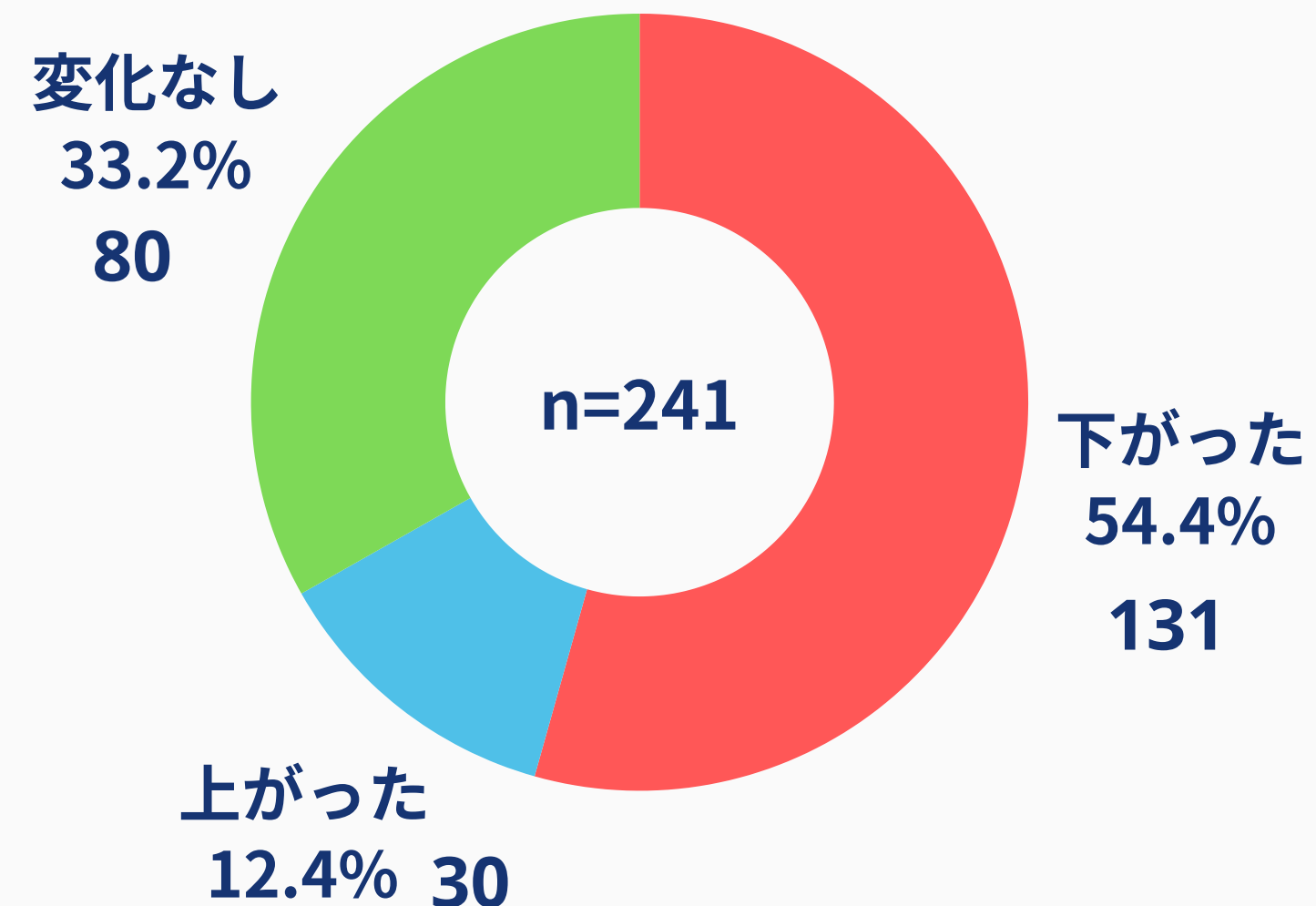
- 他の何を削っても、ここだけは影響がないようにしたい。
- 靴や靴下など穴が開いても補修して使う。おかずが減る。
- 病気へのマイナス思考が増える。
- 奨学金で借りる金額が増えるかもしれない。
- わが子は養育が必要なので本当に悩みます。
- 子どもにアルバイトをしてもらおう。
- 進学先は私立をやめて公立にした。

高額療養費制度の 多数回該当「あり」「なし」による比較

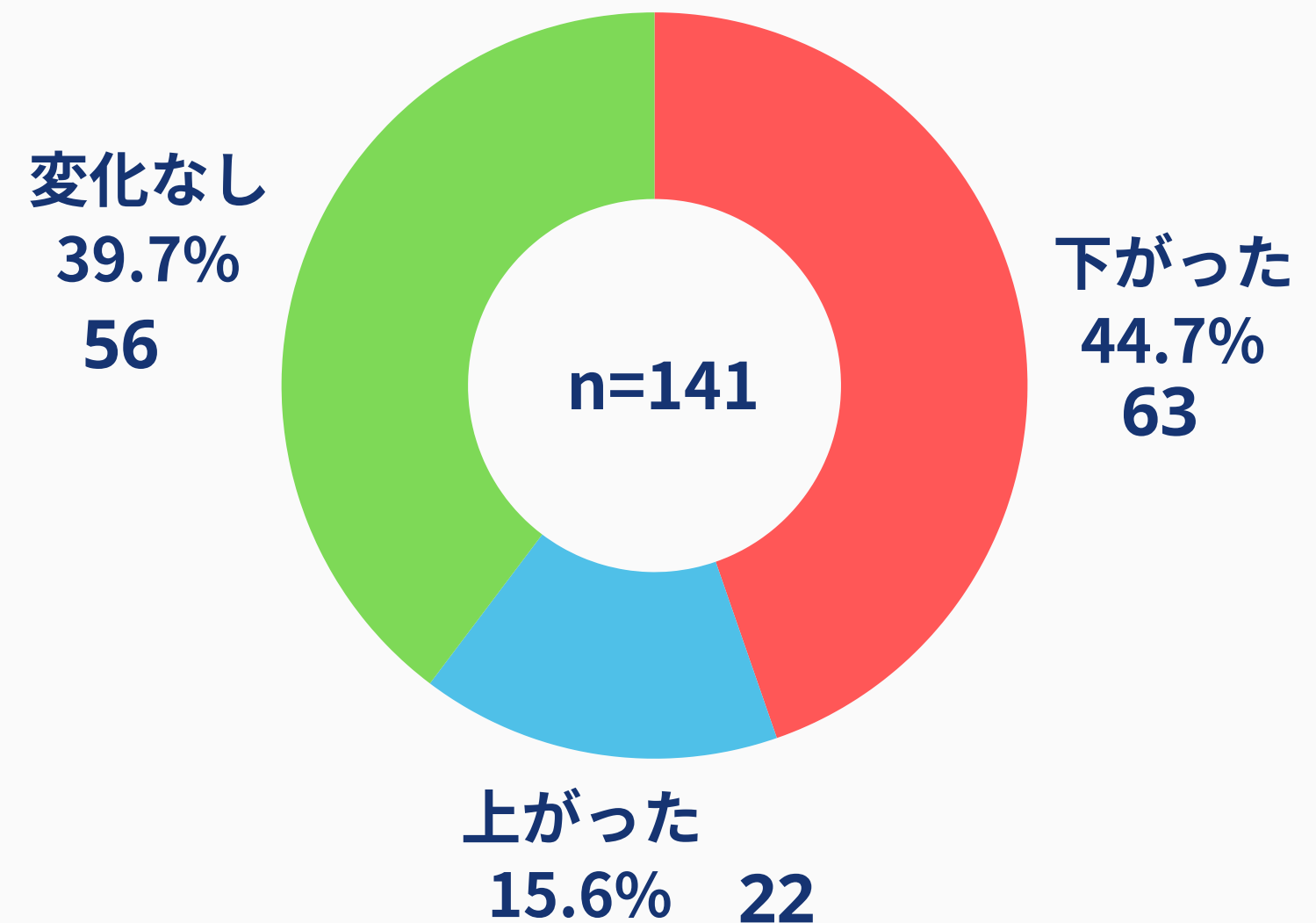
がんと診断された後、個人年収の変化 (被扶養者の場合も個人の年収)

※診断時に無職の人を除いて集計

多数回該当あり

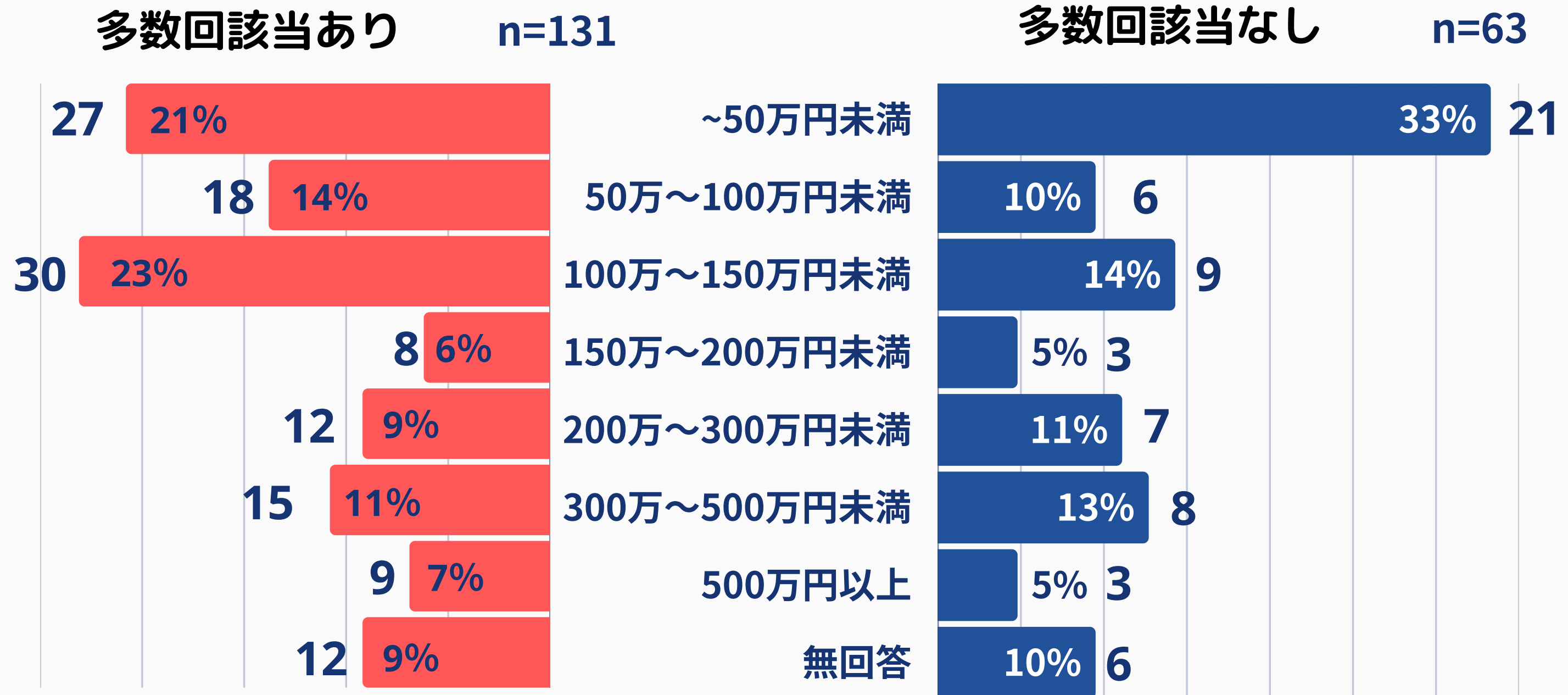


多数回該当なし



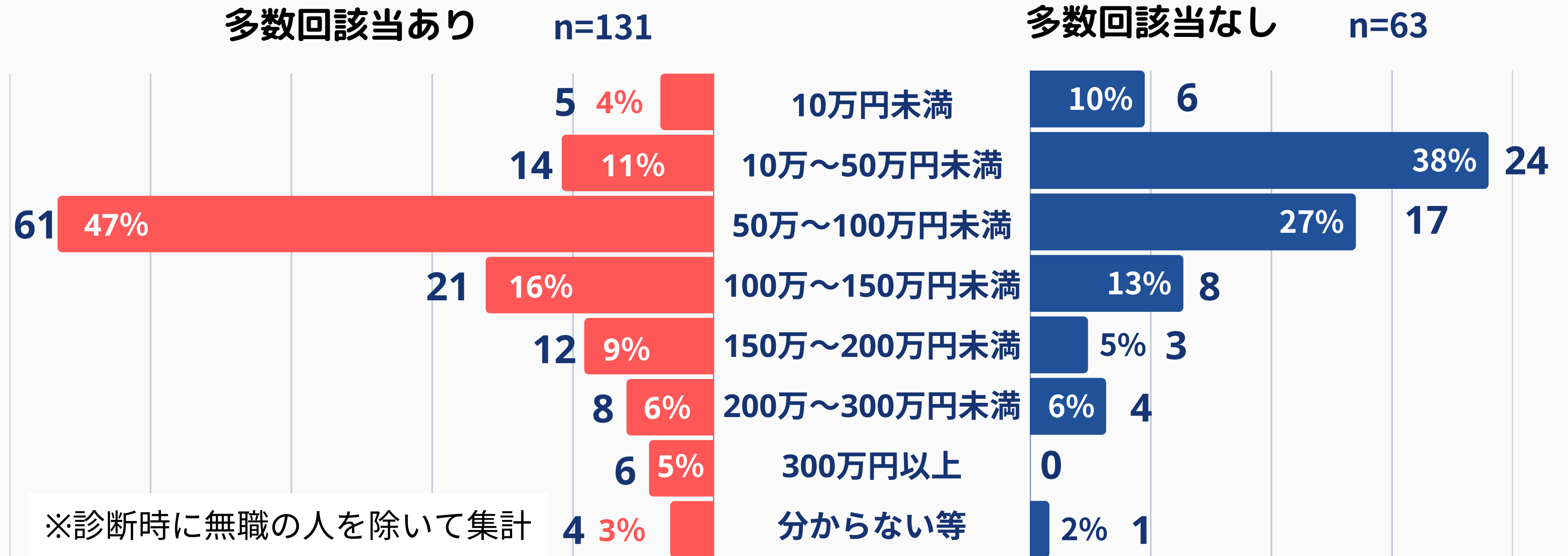
がんと診断された後、個人年収が「下がった」金額

※診断時に無職の人を除いて集計

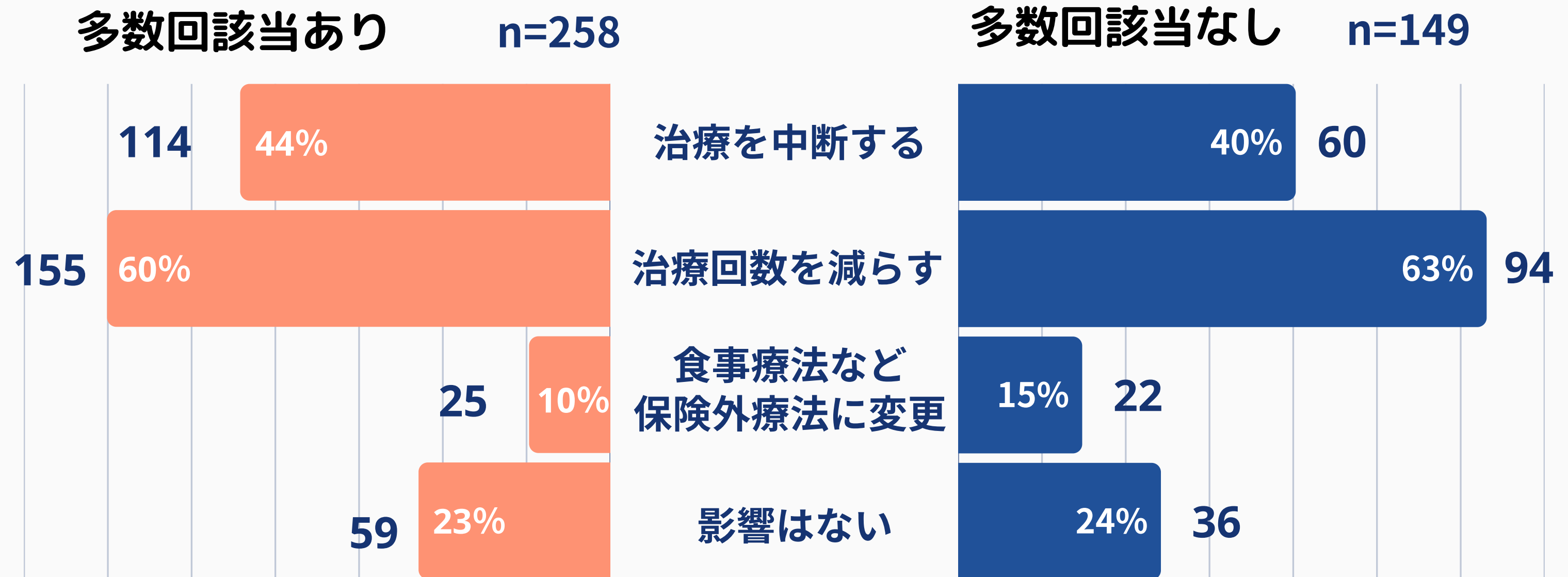


年収が「下がった」人の年間の治療費・治療関連費

※診断時に無職の人を除いて集計



多数回該当あり・なし別の治療への影響（複数回答）



◆50代女性、乳がん、子ども2人（19歳、16歳）、非正規社員（フルタイム）

引き上げになり何か支出を減らす必要があれば、真っ先に自分の治療費を減らすと思います。子どもたちが私の治療のせいで進路を変更するなんてあり得ません。なら死にます。

◆30代男性、肺がん、子ども2人（13歳、8歳）、自営業・個人事業主

まだ生きなければと、これまで治療を頑張ってきましたが、上限が引き上げられれば、私は治療を断念すると思います。子ども達のこれからのお金を私が食い潰す訳にはいきません。

◆40代女性、乳がん、子ども1人（6歳）、正社員（時短勤務）

最低限の生活基準を維持できなくなる。子どもの将来を考えると、自分の医療費にそこまでかけるのは難しくなってくる。人殺しの制度改悪だと思います。

◆40代女性、乳がん、子ども2人（14歳、9歳）、無職

今でも娯楽なんてほとんどしてませんし、私のご飯はずっと白ごはんとお味噌汁のみです。日々生活が苦しく、次に再発したら治療は出来ないと思います。ただでさえ治療は子ども達にも迷惑かけるのに、更にこんなにお金がかかってまで私が生きるのは子ども達に申し訳ないです。

◆50代女性、肺がん他、子ども1人（16歳）、無職

高額療養費を使っても毎月の医療費を捻出するのが大変です。それでも家族のためと思って辛い治療も頑張ってきましたが、これ以上負担が増えれば、果たして自分が長生きするのが正解なのかと日々自問自答しています。私たちのように高額な医療費がかかる患者は、社会のお荷物なのではないでしょうか。1日でも長く家族と過ごしたいと願うのは贅沢なことなのではないでしょうか。厚労省の皆様、国会議員の皆様、どうか私たちの「命のはしご」を外さないでください。

◆50代女性、乳がん、子ども1人（19歳）、自営業

子どもが大学生になってひとり親制度が使えなくなり、とてもきついです。

◆40代女性、乳がん、子ども1人（10歳）、非正規社員（フルタイム）

毎月、MAXの医療費です。ひとり親で正式に離婚もできておらず、とても困窮している中、引上げになれば生活ができません。

◆40代女性、乳がん他、子ども2人（17歳、14歳）、正社員（フルタイム）

うつ病で退職した配偶者も抱えて仕事復帰し、ストレスによる再発・転移が心配。長年納税してきたが、所得制限で補助を受けられないことが多く、さらに今回の引き上げで絶望している。

◆40代女性、肺がん、子ども2人（25歳、15歳）、非正規（フルタイム）

今は私の収入が低いいため何とかありますが、働くことが難しくなって夫の扶養に入ることになれば限度額も上がり、今の治療の継続は厳しいです。これからも生きていく家族のお金を、治る見込みのない私の治療費で消費するのは辛いので、働けなくなったら治療はやめたいと思う。

40代女性、乳がんステージ4

抗がん剤を3回スキップ。私、大丈夫かなと、怖くなってくる。

息子の卒業式には、背筋をシャンと伸ばして出席したいと、小さな夢がある。

だからあと2年は、元気な今の状態でいたい。

30代男性、大腸がんステージ4

自分が癌になって、先行きがすごく不安になって、子供の前で泣いてしまった。

子供にはとても申し訳ないと思う。自分が入院したことで子供にはいっぱい我慢させてるし、退院してからも、身体がまだ治りきってないので、いっぱい甘えさせてあげられなくて。

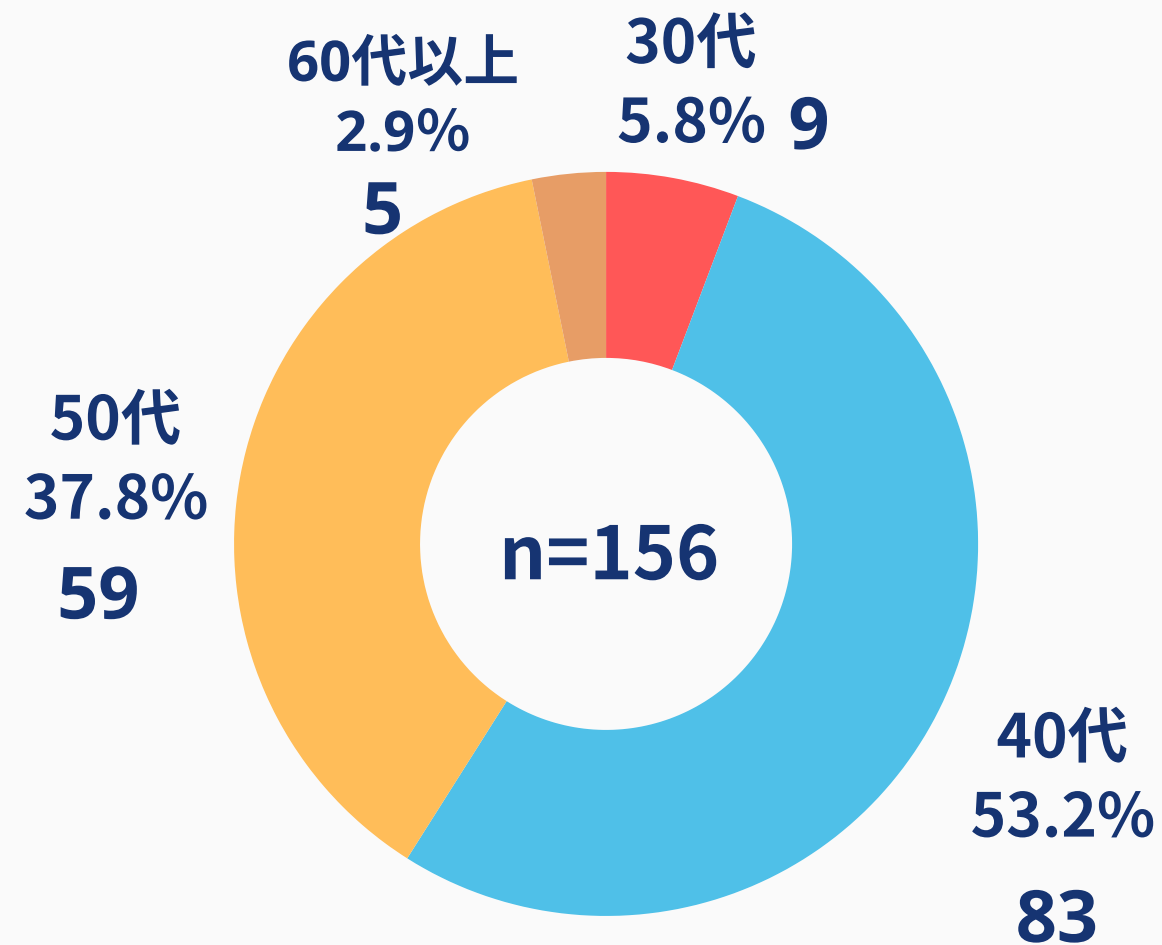
こんなことになってしまって、、とても情けないです。

- 半数が病気で収入が減る上に、治療（年50万～100万円が4割）と子育てにお金がかかり、現状でも家計は厳しい。
- 6割が多数回該当を経験する一方、再発の可能性を残す「経過観察」も4割。再発の繰り返し、副作用による休薬等もあり、長期療養＝多数回該当ではない。
- 多数回該当の有無にかかわらず、4割が「治療中断」、6割が「治療回数減」を考えると回答。
- 子どもの養育と自分の命を天秤にかける状況に追い込まれている。

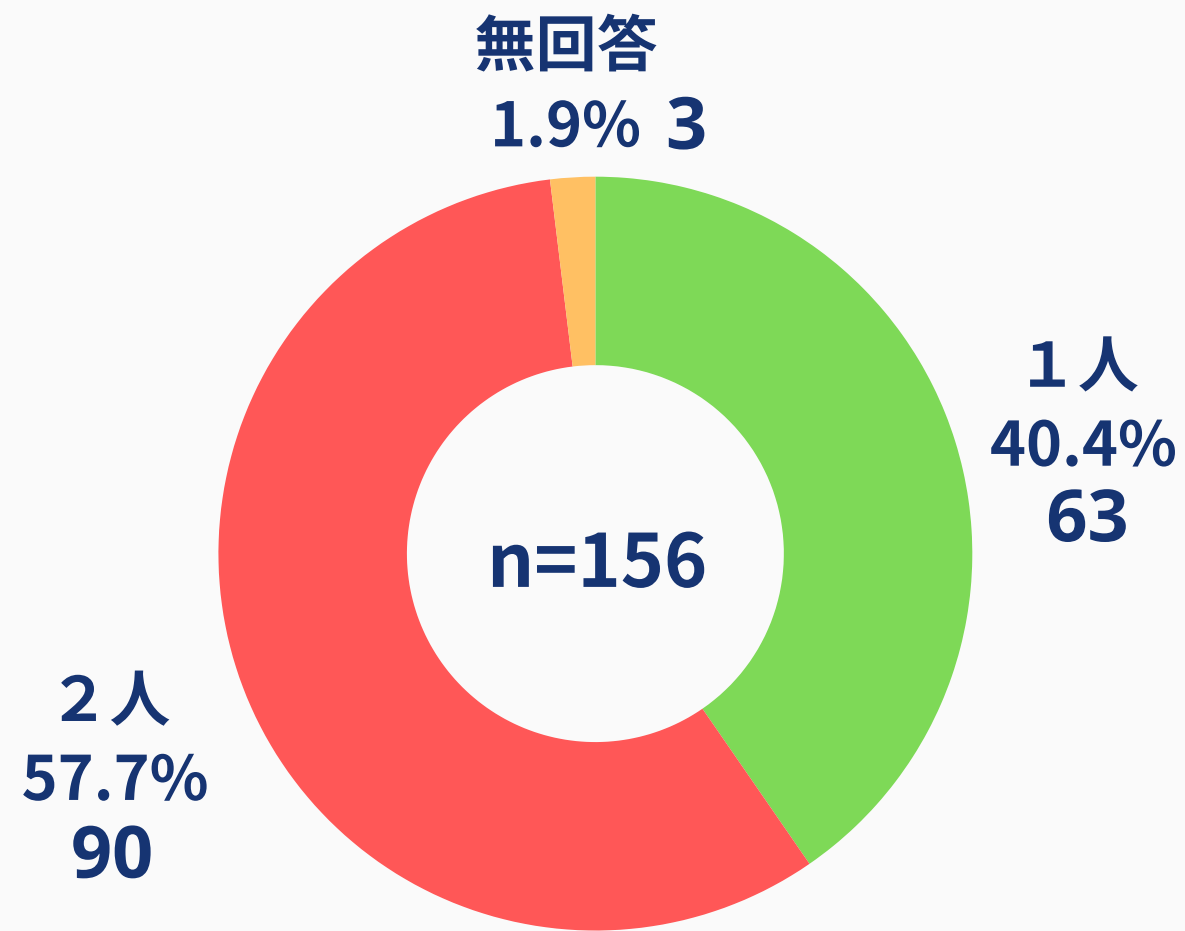
乳がんを抽出 156件

回答者の概要①

年齢



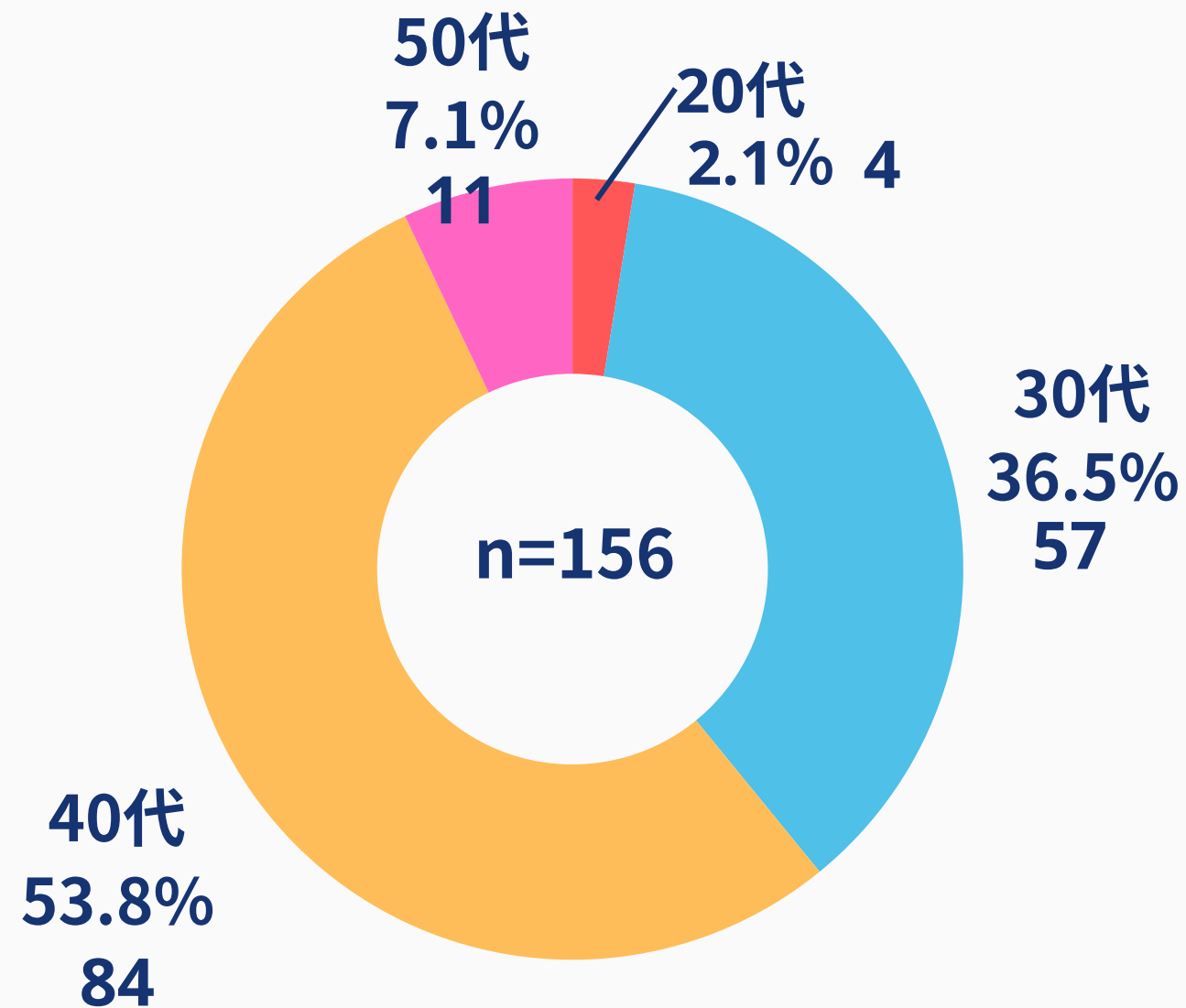
子どもの人数



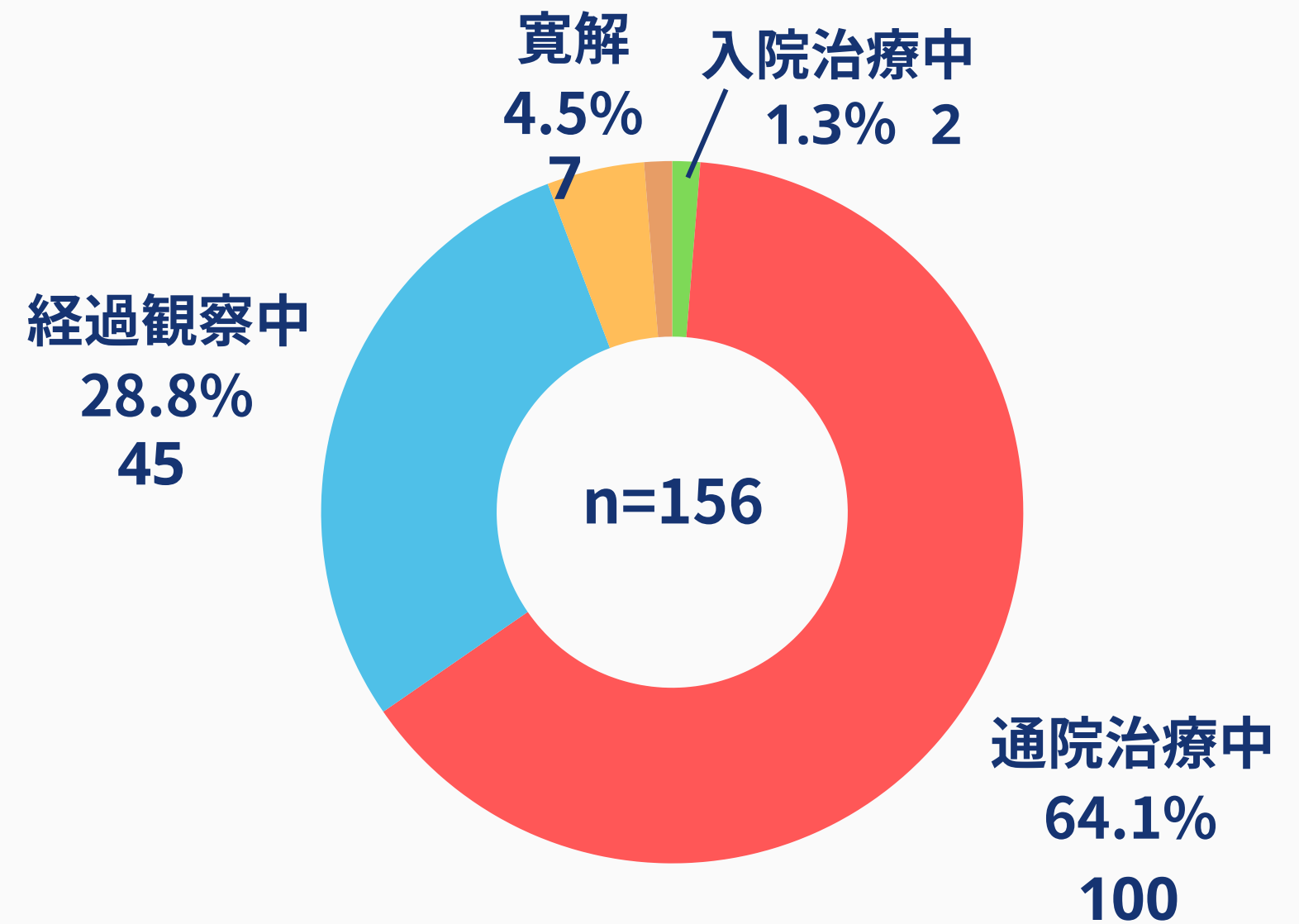
子どもの平均年齢

14.0歳

最初のがんの告知（診断）を
受けたときの年齢



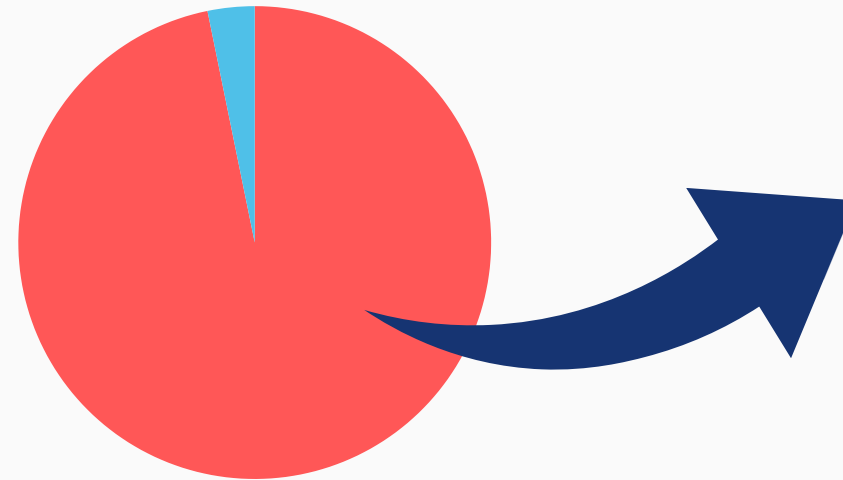
現在の治療状況



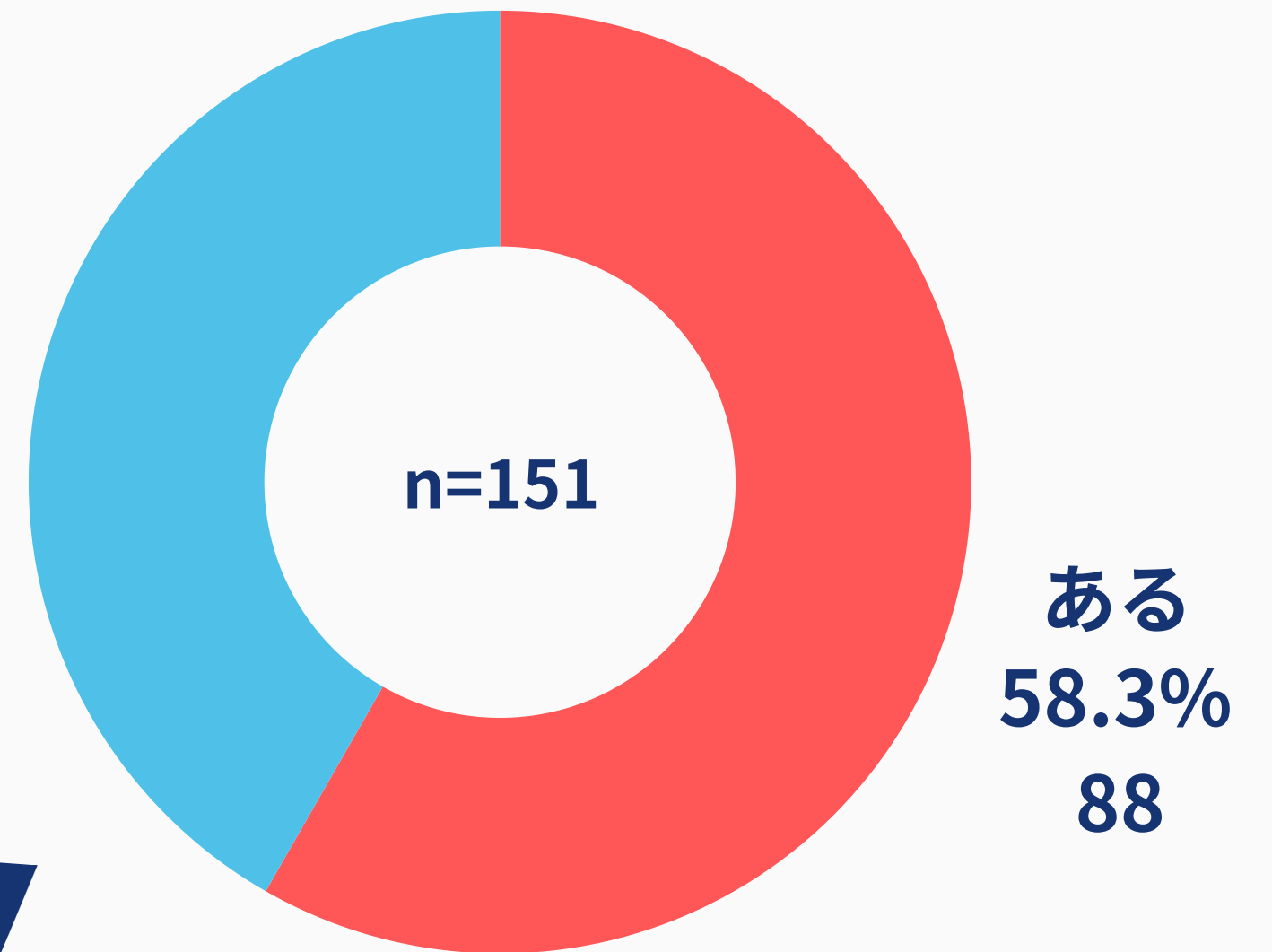
6割が多数回該当になったことが「ある」

高額療養費制度を使ったことが

「ある」	96.8%	151
「ない」	3.2%	5

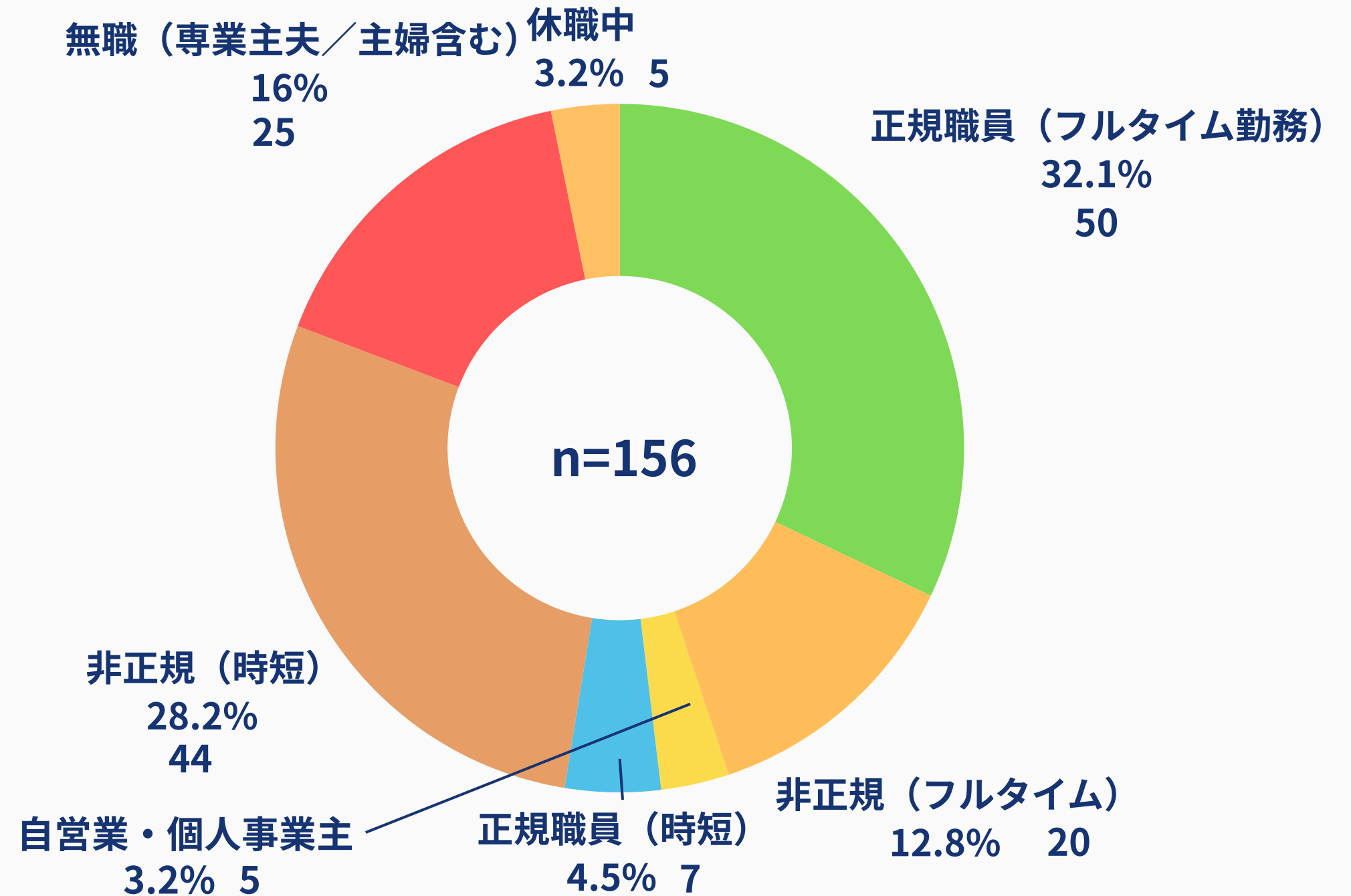


ない
41.7%
63

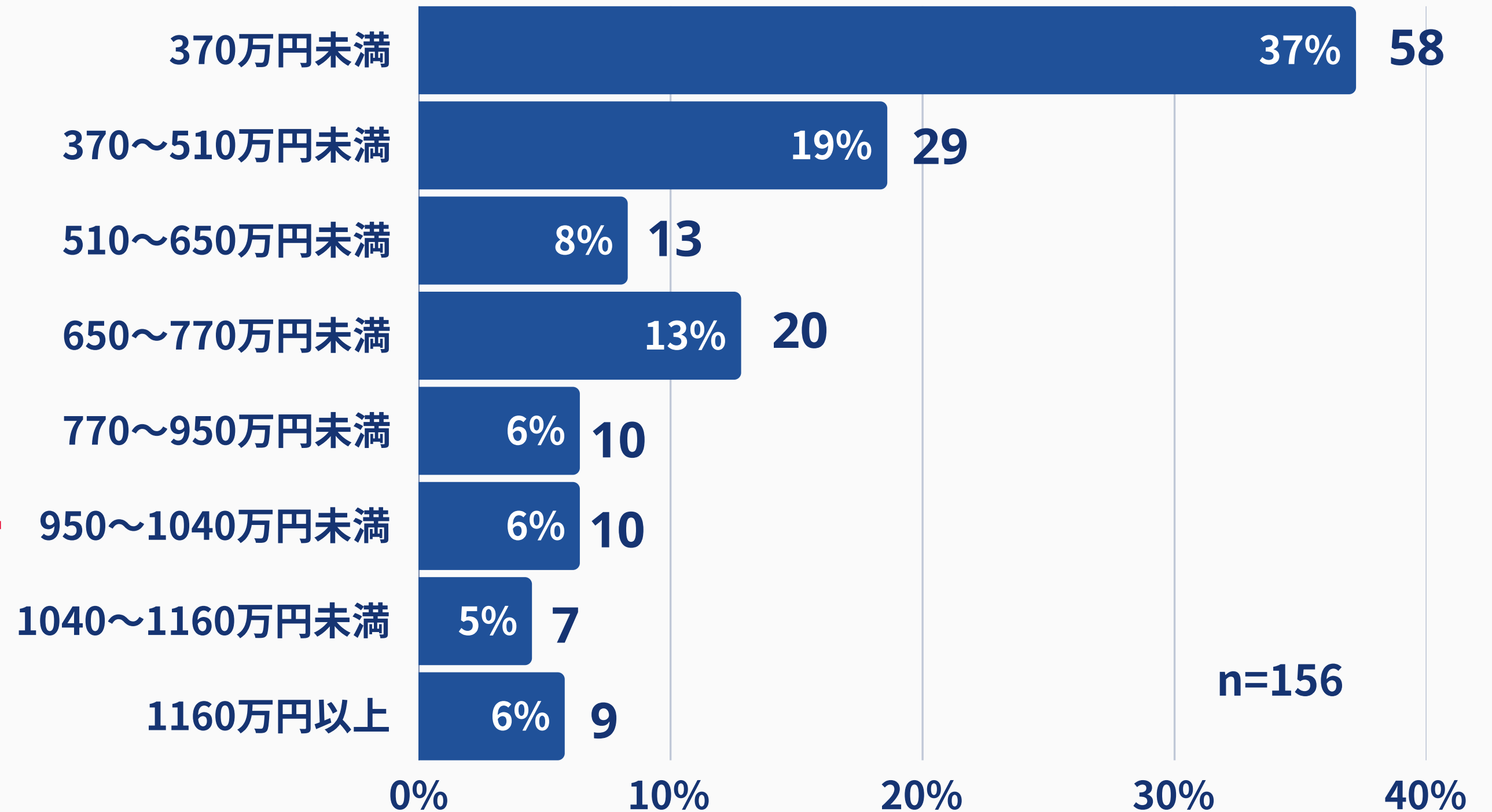


8割が働いている

フルタイム・自営	48.1%
時短勤務	32.7%
無職・休職	19.2%

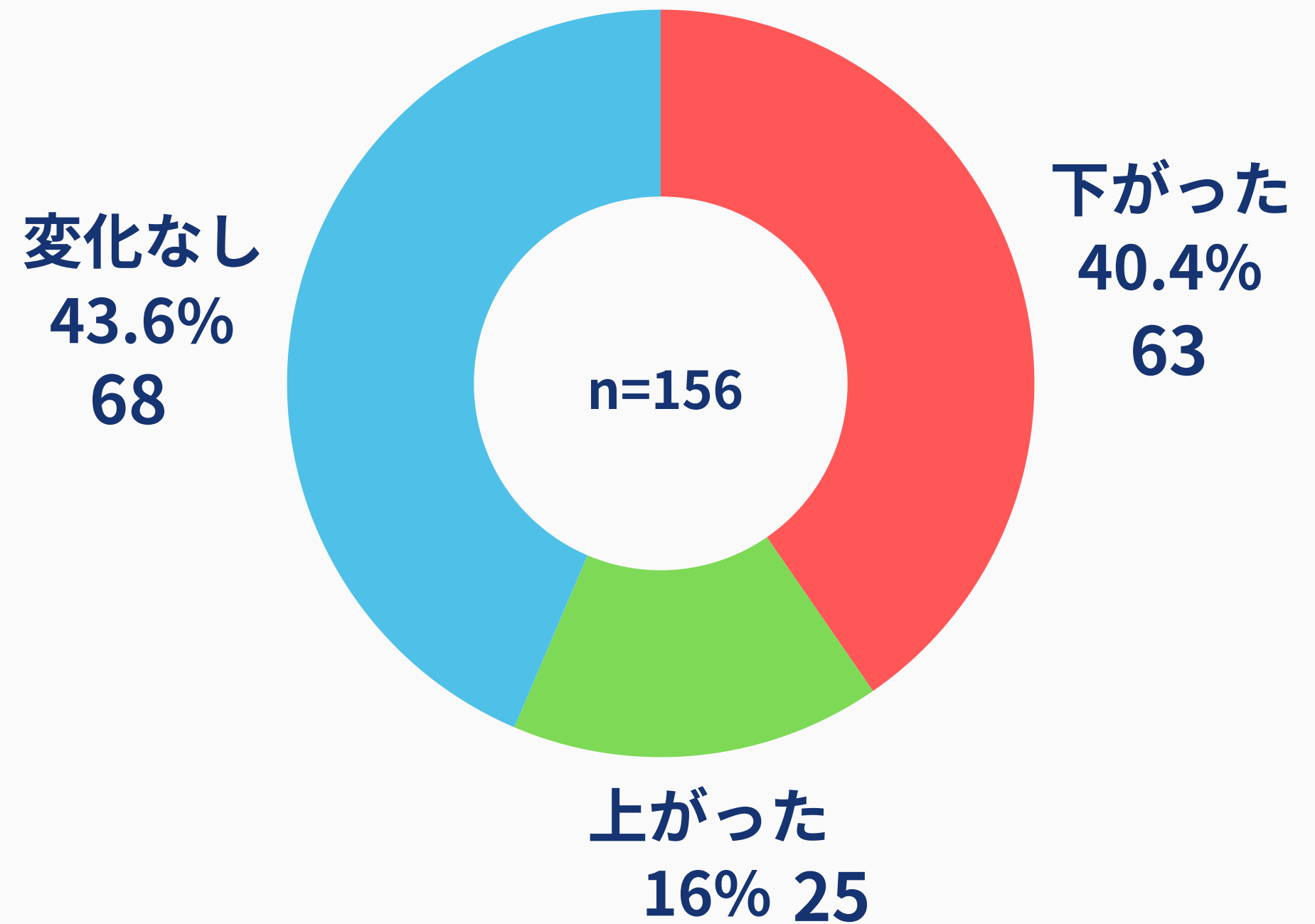


約8割が
引上げの影響が
大きい
年収770万円未満

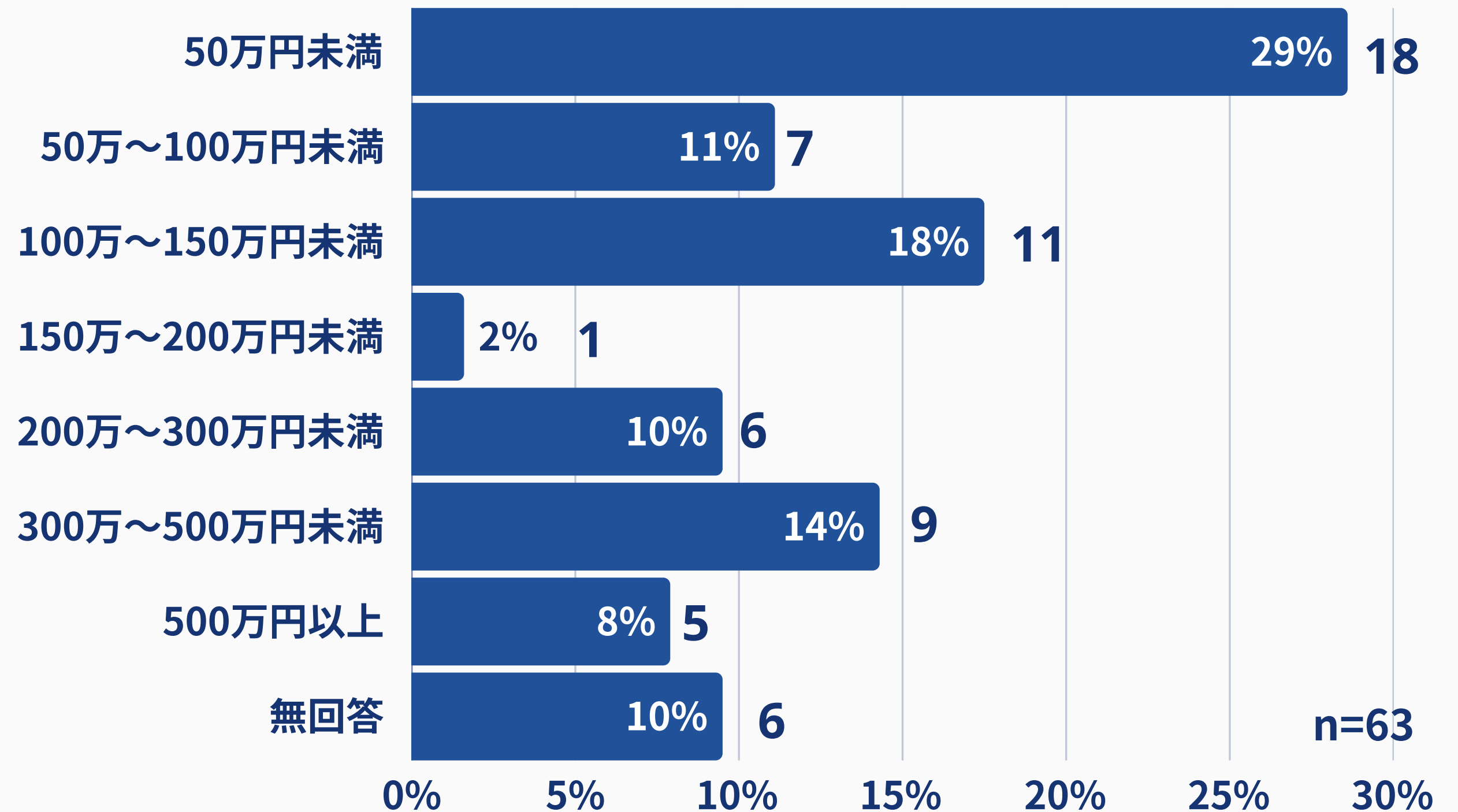


がんと診断された後、個人年収の変化 (被扶養者の場合も個人の年収)

がんと診断後、
4割が
年収が下がった

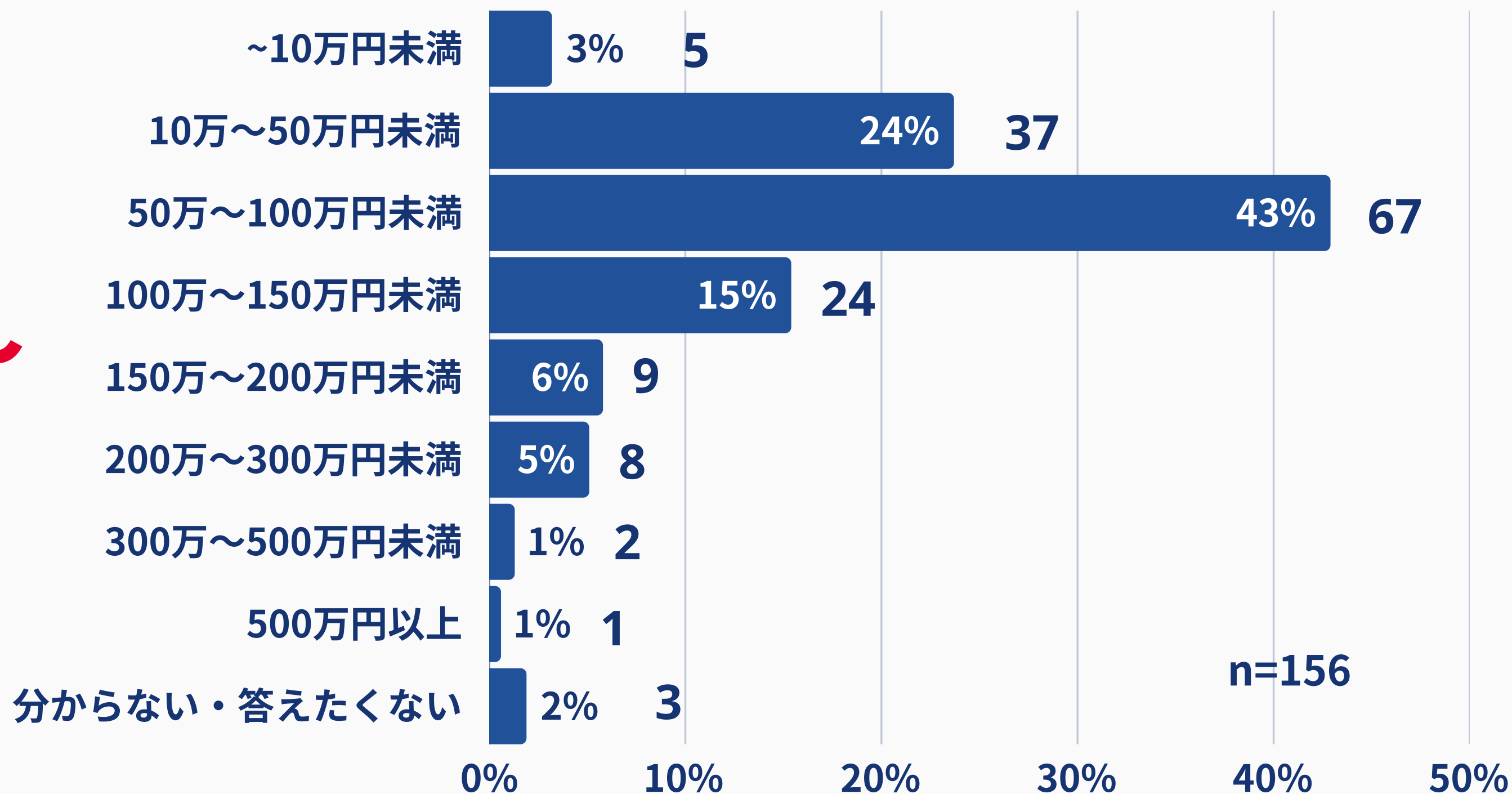


3割が
50万～150万円
年収が下がった



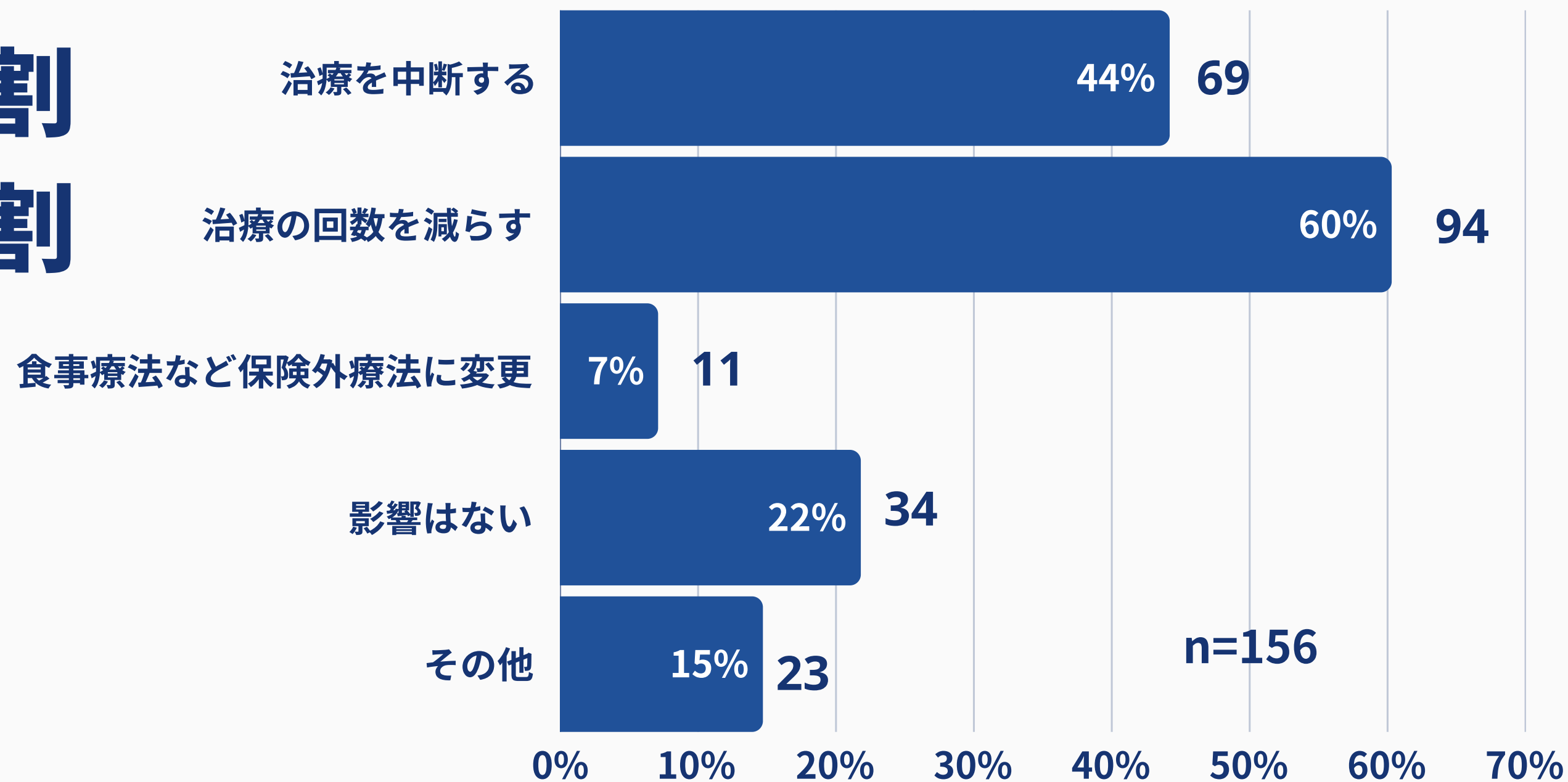
がん治療費が最もかかった時期の、年間の治療費・治療関連費 (保険の給付金等を差し引かない自己負担額)

かかった
治療費は
年間50万～
100万円が
4割で最多



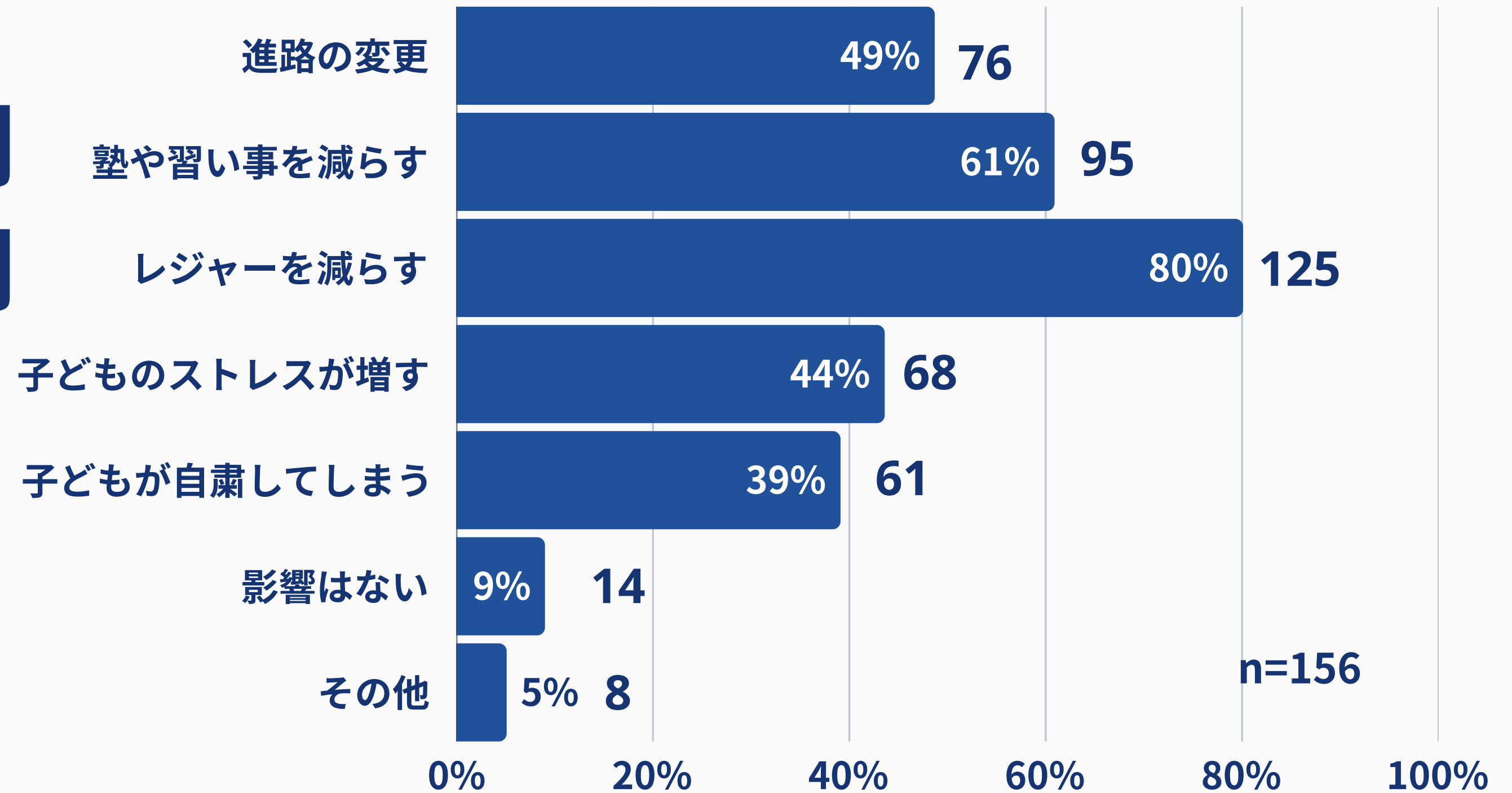
限度額引き上げは、治療継続や治療法選択にどのような影響あると思いますか。(複数回答可)

治療中断 4割
回数減 6割



限度額引き上げは、育児や子どもの教育・生活などにどのような影響あると思いますか。（複数回答可）

進路変更 5割
習い事減 6割



◆Aさん（40代）乳がん、通院治療中、正社員、年収650万～770万円未満

分子標的薬を服用。最も高いときで月に20万円弱、現在は用量を減らして13万円程度。多数回該当で実際は月4万4000円。

◆Bさん（40代）乳がん、通院治療中、個人事業主、年収510万～650万円未満

最も高いときで年間150万～200万円かかり、多数回該当になったこともあるが、現在は3週間に1回、7万4000円の分子標的薬点滴を使用。高額療養費に該当せず、7年間払い続けている。

◆40代、子ども2人（15歳、11歳）

子供とまだ生きたい、成長を見届けたいという一心で、治療と仕事をなんとか両立していますが、この願いと努力を打ち砕き、**命の選択を迫る改悪**です。子供の進路にも影響するため、治療断念もありえます。癌は高齢者だけの病気ではありません。どうか**命綱を切らないで**。

◆40代、子ども2人（16歳、10歳）

できるだけ長く現状維持できるように治療を続けていますが、これ以上負担が増えると、**私の命と子供達の教育費を天秤にかける日が必ず来る**と思います。治療を止めれば5年後にはこの世にいないだろうと言われていています。少しでも長く生きて、子供達の成長を見守りたいです。

◆50代、子ども1人（18歳）

治療を諦めることは、**病死ではなく自死に等しい**と思います。治療費のために家族が治療を諦めたとしたら、それが遺族にどれほどの心理的影響を及ぼすのでしょうか。

◆40代、子ども2人（8歳、6歳）

癌治療が長引くだけで体力・精神力が低下します。正社員では働き続ける事が困難となり、できる仕事も減りました。現在も**貯蓄を切り崩して治療**を継続しているので、子供達の教育費の為に治療を断念した方がいいのではないかと何度も思っています。

◆40代、子ども2人（14歳、12歳）

他のお母さんのようには動けない自分と、色々我慢してくれている家族に、ただでさえ申し訳ない気持ちが強いのにも、治療費まで上がってしまったら…私は**このまま生きていていいのだろうか**。今でも子ども達は色々我慢しています。これ以上苦しめないでほしい。

◆40代女性、子ども2人（13歳、7歳）

子供が成人するまで生きたいから、仕事もしながら治療も続けている。でも、限度額上限が上がれば、**どちらかを諦めなさい**と言われている気がする。

◆50代、子ども1人（25歳）

高額療養費があっても、他にも細かいところでお金がかかります。治療でしんどくて、ご飯が作れずお惣菜を買ったり、通院時の交通費もかかります。普段の治療はクリニック、大きな検査をする時は紹介状を書いてもらって総合病院へ、歯の検診は歯医者へ、と医療費が分散してしまい、トータルでは結構な額になるのに、**高額療養費の対象にならない**ことが多々ありました。この改悪は本当におかしい。**金の切れ目が命の切れ目**になるなんて絶対にあってはならないと思います。

◆50代、子ども1人（5歳）

給与は上がらないのに、物価ばかりが上がって、**今でも家計をやりくりすることが大変**なのに、限度額が引き上げられたら、もし再発した時に安心して治療を受けることができなくなりそう。

◆50代、子ども2人（29歳、26歳）

現時点でも毎月44000円の負担は大きいのに、今後、それ以上に上がるなら治療間隔を空けるか、治療をやめて**終活**しようと思う。

◆50代、子ども1人（19歳）

子どもが大学生になってひとり親制度が使えなくなり、とてもきついです。

◆40代、子ども1人（10歳）

毎月、MAXの医療費です。ひとり親で正式に離婚もできておらず、とても困窮している中、引上げになれば生活ができません。

◆40代、子ども2人（17歳、14歳）

うつ病で退職した配偶者も抱えて仕事復帰し、ストレスによる再発・転移が心配。長年納税してきたが、所得制限で補助を受けられないことが多く、さらに今回の引き上げで絶望している。

◆40代、子ども2人（10歳、4歳）

契約社員でしたが、がん患者は感染症の恐れが高いからと産業医の判断で入社停止を指示され、そのまま休職期間満了で失職しました。そんな個々の事情にもかかわらず、高額な治療は待ってはくれません。

- 4割が病気で収入が減少。治療費は全体と同様、年50万～100万円が4割。現状でも家計は厳しい。
- 6割が多数回該当を経験。通院治療中が6割強で全体より15.6ポイント多い。
- 「治療中断」4割、「治療回数減」6割。全体に比べると「進路変更」がやや少なく、「治療中断」がやや多い傾向。
- 乳癌は現役・子育て世代で罹患する割合が多く、患者本人だけでなく家族や生活全般に深刻な影響を及ぼす。